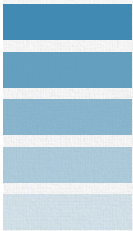


7

2026 北海道・札幌オリンピック・パラリンピック 冬季競技大会 開催提案書

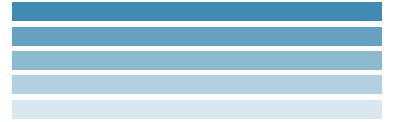


2026 HOKKAIDO SAPPORO OLYMPIC AND PARALYMPIC WINTER GAMES

2026北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会

開催概要計画書





本計画書は、2026年大会を札幌で開催するとした場合に、競技施設の配置など大会運営全般について、札幌市からJOC（日本オリンピック委員会）に提案する書類です。

今後、JOCやIOC（国際オリンピック委員会）、IF（国際競技団体）等との協議の中で内容が変更となる可能性があります。

目次

招致の意義	・・・01
基本理念	・・・02
大会コンセプト	・・・04

競技編

大会概要	・・・09
施設整備のコンセプト	・・・10
競技プログラム	・・・11
競技会場一覧	・・・14
競技会場MAP	・・・16
練習会場MAP	・・・17
会場間の距離・移動距離一覧表	・・・19
開会式／閉会式	・・・21
スキー・アルペン	・・・23
スキー・クロスカントリー	・・・25
スキー・ジャンプ	・・・27/29
スキー・ノルディック複合	・・・27/29/31
スキー・フリースタイル	・・・33
スキー・スノーボード	・・・33
スケート・スピードスケート	・・・35/37
スケート・フィギュアスケート	・・・39
スケート・ショートトラック	・・・39
アイスホッケー	・・・41/43
ボブスレー／スkeleton／リュージュ	・・・45
カーリング	・・・47
バイアスロン	・・・49
パラリンピック競技	・・・51
オリンピック・パラリンピック選手村	・・・53
気象データ	・・・56

運営編

交通輸送	・・・59
メディカルサービス	・・・62
メディア関係	・・・65
安全対策	・・・67
環境保全	・・・69
宿泊	・・・71
財政計画	・・・73
国際大会及び会議の開催状況	・・・75

盛り上げ編

選手強化のための協力	・・・77
オリンピック・パラリンピックムーブメント推進事業	・・・78

レガシー編

ウィンタースポーツを楽しむ文化を次世代へ	・・・81
世界に誇るウィンタースポーツ王国「北海道」へ	・・・83
大会後も市民に利用される稼働率の高い施設整備	・・・85
仮設施設の有効利用	・・・85
北の創造都市「さっぽろ」に向けて	・・・86

資料編	・・・89
-----	-------

写真提供：フォート・キシモト、PIXTA

招致の意義

1972年に札幌で開催されたアジア初となる冬季オリンピックは、札幌のウインタースポーツシティとしてのプレゼンスを高め、国際化に大きく貢献するとともに、札幌の街を大きく変え、市民の誇りとアイデンティティの形成につながりました。

あれから40年余り。

再び冬季オリンピックを開催し、初のパラリンピックを開催することは、子どもたちに夢と希望を与え、冬季スポーツを振興し、世界平和に貢献するというオリンピック本来の意義に加え、都市基盤および冬季スポーツ施設の更新や、バリアフリーの促進といった都市のリニューアルを推進することになります。

また、環境に優しい自然豊かな北海道の魅力を世界の人々にアピールする絶好の機会でもあり、世界各国から訪れる観光客の誘客や道産食材等のPR、スポーツ合宿の誘致等、北海道全体の地域経済の活性化につながるものと考えられます。

以上により、札幌のみならず北海道全体で大会を開催することを通じて、地方創生の起爆剤となることが期待されます。

さらに、札幌が今後待ち受ける人口減少や少子高齢化の更なる進行への対応や、新たなエネルギー社会の構築といった幾多の困難を克服していく誇り高き市民力を育成し、札幌ひいては北海道の未来を切り拓いていくこととなります。冬季オリンピック・パラリンピックは、時代の転換期を乗り越え、札幌の未来を創り上げていくために、多くの市民が夢を共有し、大きな目標に向かって市民力を結集させるための、この上ない機会であると信じています。

招致から開催までの取組は、市民・企業・行政が一体となる、いわば「まちづくり運動」そのものであります。これを成し遂げることで、成熟都市としての都市ブランドとシビックプライドを醸成し、札幌の街を新たなステージへと押し上げることとなります。

スポーツの栄光、平和の祭典でありますオリンピック、そして世界最高峰の障がい者スポーツ大会であるパラリンピックを札幌で開催したいと思います。



基本理念

基本理念を考えるにあたって、札幌の強みを活かし、課題を克服しながら、開催概要計画の目指すべき方向性を導き出します。

1. 札幌の強み

(1) レガシー

札幌は1972年のオリンピック冬季大会を契機として地下鉄や道路網などの都市の骨格をつくるとともに、競技施設や選手・役員・報道関係者などの関係者を受け入れるための施設が整備されました。

また、オリンピックを間近に観戦することで市民の中にウィンタースポーツに親しむ文化が定着するとともに、アジアで初めてのオリンピック冬季大会を市民が一丸となって成功させたことは、国際都市札幌として市民の誇りになっています。

(2) ウィンタースポーツ都市としてのポテンシャル

札幌は年間6mを超える降雪がありながら約200万人の人口を持つ都市と自然が共存する街であり、さっぽろ雪まつりなど雪を楽しむ文化が根付いているとともに、交通網などの社会インフラも充実し、国内外からのアクセス環境も整っています。

また、1972年のオリンピック冬季大会開催後も、アジア初のノルディックスキー世界選手権大会やアジア冬季競技大会の開催など、数多くのウィンタースポーツの世界大会の開催実績があるとともに、北海道の持つ食や自然環境など多くの観光客を引き付ける魅力もあるなど、これらを活かした、IOCが求める持続可能なオリンピック・パラリンピック大会の開催が可能な都市です。



2. 課題

(1) 札幌を取り巻く課題

大会後44年を経て、1972年のオリンピックを知る世代は市民の半数以下となり、冬季スポーツの実施率も低迷している状況の中、当時整備された競技施設や社会基盤整備のインフラも老朽化が進み、更新時期を迎えています。

また、北海道では、人口減少による経済活動への影響が懸念される中で、アジア等への市場開拓等の経済政策を進めているところですが、中心都市としての役割を果たす札幌においても集客産業による経済の活性化を図ることで、北海道全体の地方創生が求められています。

さらに、超高齢社会に対応した、すべての人にやさしい新たなまちづくりが求められています。

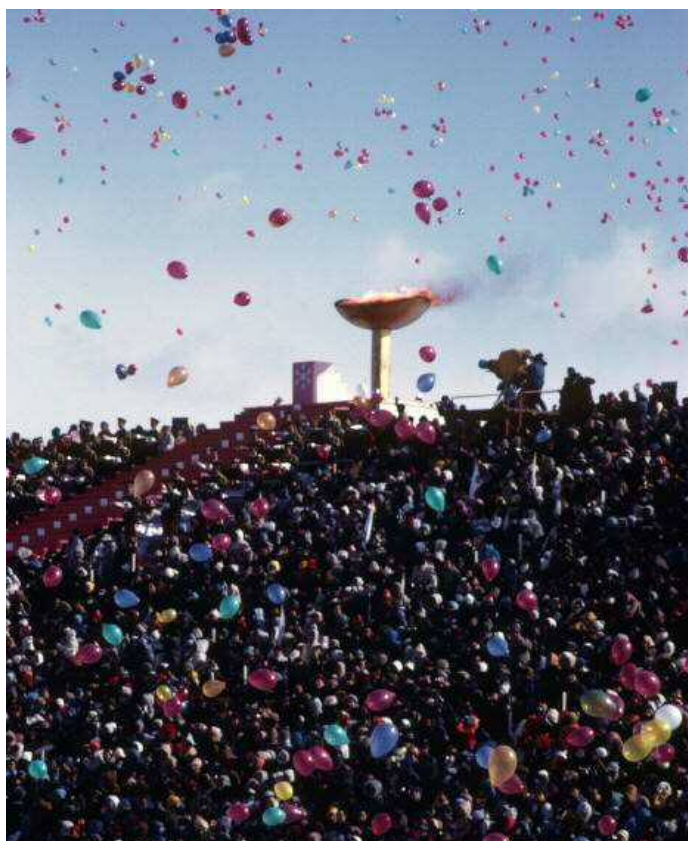
(2) 世界の趨勢

冬季オリンピック・パラリンピックについては、氷上競技施設等の財政負担により、開催可能な都市が限られることや、地球規模で深刻化する環境問題を受け、オリンピック・アジェンダ2020においては施設や自然などの既存資源を活かした財政的にも環境的にもやさしいオリンピック・パラリンピックモデルが求められています。

【オリンピック・アジェンダ2020のポイント】

評価にあたっては、持続可能性とレガシー（遺産）に重点が置かれている。

- ①持続可能性…既存施設の活用、仮設の活用等による財政負担の軽減や、環境への配慮が求められている。
- ②レガシー…競技施設などの有形財産、大会を開催することで得られる、スポーツ振興や地域活性化、市民の誇りといった無形財産としての遺産を未来へ継承していくことが求められている。



3. 目指すべき方向性

（１）大会の開催を契機としたまちづくり

札幌市では、「まちづくり戦略ビジョン」を2013年に策定し、“北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち”と“互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち”を「目指すべき都市像」を掲げ、まちづくりを進めています。オリンピック・パラリンピック大会招致をきっかけとして、まち全体をリニューアルし、雪を楽しむ文化・ライフスタイルを新たな価値として市民にさらには国内及び世界へ発信していくとともに、共生社会の実現を目指し、オリンピックとパラリンピックの融合を図ることで、超高齢社会に対応したユニバーサルなまちづくりを進めるなど、このビジョンを加速していきます。

（２）ウインタースポーツ都市としての地位の確立

2018年平昌大会や2022年北京大会などの開催を通じて、今後、アジアにおけるウインタースポーツは飛躍的に発展することが予想されます。札幌において、オリンピック・パラリンピック大会に向けたウインタースポーツの拠点として環境を充実していくことで、アジア、そして世界に誇るウインタースポーツ都市としての確固たる地位を築きます。

また、札幌市のみならず北海道全体の発展を常に意識し、道内の魅力資源と札幌の都市機能を融合させながら、北海道の魅力を更に高め、活力を与えることを目指します。

（３）持続可能なオリンピック・パラリンピックモデルの提案

既存の施設や交通インフラなどを最大限活かしながら、ローコストな大会を心掛けるとともに、大会後も市民や国内、そして海外から多くのアスリートやゲストが集まる施設や受け入れ環境の整備を進めます。

また、自然エネルギーを活用した、先駆的な環境モデルの実現を目指します。

これらを踏まえ、以下のとおり基本理念を設定します。

4. 札幌2026大会・基本理念

札幌らしい持続可能なオリンピック・パラリンピックモデルの提案 ～人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを～

- ・1972年で得たレガシー、札幌・北海道の豊かな自然と都市機能を活かします。
- ・雪を楽しむ北国らしいライフスタイルを次世代へ継承します。
- ・パラリンピックを契機に新たな時代に対応した、すべての人にやさしい豊かな暮らしを創出します。
- ・札幌・北海道の魅力とウインタースポーツの力で世界から人々を惹き付けます。
- ・既存資源を活かし、次世代に過度な財政負担を残すことなく、環境にも配慮した持続可能な大会の実現を目指します。

冬季オリンピック・パラリンピックは、それぞれわずか2週間程の行事ですが、オリンピック・パラリンピック後に何を遺すかということや、札幌市の目指すべき都市像としての「まちづくり戦略ビジョン」との整合をとることが重要です。

大会コンセプトの作成にあたっては、基本理念に基づき「どのような大会とするか」「オリンピック・パラリンピックの開催により何を遺すか」「開催を契機にまちがどのようになっていくか」という3つの視点から、8つのコンセプトを設定します。

視点1:大会運営

～スマートで独創的な大会運営モデル～

オリンピックムーブメントが持続するような計画とするため、未来の大会に向けての札幌ならではの独創的な提案が重要であると考えます。

計画をつくるにあたり、競技種目や開催規模などの設定の仕方を含め、コストの削減やテロ対策など、スマートで安全安心な大会としていくことが重要であると考えます。

1. アスリートファーストの視点で

○優れた競技環境、国際大会の開催実績に基づく高い運営能力、万全な警備・危機管理体制、良質な宿泊環境、会場への快適なアクセスなどアスリートにとって最適な環境を提供します。

○選手の移動、地理的条件、持続可能性を考慮した可能な限りコンパクトな施設配置を目指します。

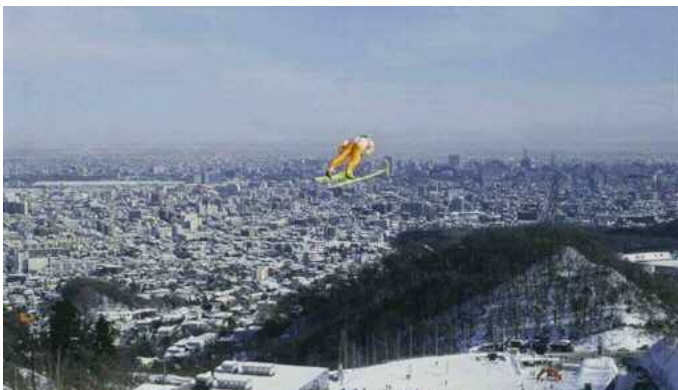
○計画段階で大会運営や施設計画に選手の意見を反映させます。

○次代を担う若者や子どもたちにも普及できる新たな競技種目を取り入れます。

2. 札幌ならではのおもてなしを

○良質で多機能な宿泊施設、快適な交通アクセス、北海道の豊かな食などを活かし、選手や役員、オリンピックファミリー、観客などの来訪者に滞在期間をストレスフリーに過ごせるおもてなしを提供します。また、公共空間の禁煙化を進めます。

○誰もが自然の雪と氷を楽しめる創造的な文化・芸術イベントを創り上げるとともに、地域住民のボランティア等、市民参加の手作り感ある大会運営により、来訪者をおもてなしします。



3. パラリンピックのさらなる発展を

○オリンピックとパラリンピックの融合により、互いに手を携え、誰もが活躍できる共生社会の実現へつなげていきます。

○障がい者スポーツの大会を積極的に開催し、障がい者スポーツの普及・発展に寄与するとともに、パラリンピック、パラリンピアンへの認知度を向上させることで、インクルーシブな社会の構築を目指していきます。

○パラリンピックを契機に、会場や交通機関におけるアクセシビリティ※の向上を進めます。

※アクセシビリティとは、障がいの有無に関わらず、また幅広い年齢の人々が、社会的インフラ、施設、設備、製品、サービスにスムーズにアクセスし利用可能なこと

○パラリンピック教育を推進することで、ノーマライゼーションの理念を広め、心のバリアフリー化を進めます。

4. 持続可能性に配慮したオリンピック・パラリンピックを

○既存の夏季施設など、既存資源の活用を前提に財政負担を低減するとともに、競技施設への再生可能エネルギーの導入や公共交通を軸とした輸送計画による環境負荷の低減など、持続可能性に配慮した大会を提案します。

○ランニングコスト縮減に配慮し、後利用を考えた恒久施設と仮設施設を組み合わせるなど、無駄のない施設計画をつくります。

○建替えにより整備する競技施設については、大会後に夏冬問わず多目的に活用できる稼働率の高い施設とする後利用計画をつくります。

○選手村やメディアセンターなどの非競技施設については、更新時期にある既存の同種用途施設の再整備と連動させることや、用途変更なども想定した民間施設の借上方式を導入し、経済的かつ効率的な後利用を前提とした計画を提案します。

視点2:レガシー

～豊かな自然の中でウィンタースポーツ文化を形成～

札幌には、1972年冬季オリンピックにより整備された施設や、オリンピックを開催したことにより育まれた市民のまちに対する誇りや愛着心が、有形無形の財産として残っています。

しかし、今、1972年冬季オリンピックを知る世代の減少、ウィンタースポーツ実施率の低迷、当時整備された施設の老朽化など、歴史を継承する上での課題があります。次世代に歴史を継承していくために、これらの財産をどのように活用していくかという視点が重要であると考えます。

5. ウィンタースポーツを楽しむ文化を次世代へ

○1972年札幌オリンピック時に建設された数ある施設については、リニューアルの際にオリンピックの記憶を未来へと継承していきます。

○札幌の恵まれた雪質、身近にウィンタースポーツを楽しめる環境を活かし、子ども達のウィンタースポーツの体験機会の充実など、冬の豊かなライフスタイルを構築し日常生活の延長上にオリンピック・パラリンピックがあるという文化を創出します。

○オリンピック・パラリンピックを通じて、国籍、年齢、性別、文化の違い、障がいの有無に関わらず、すべての人がオリンピック精神である世界平和を感じ発信できる環境づくりを目指します。

○子ども達や若者をはじめ、多くの市民や来訪者に1972年札幌オリンピックの輝かしい歴史を紹介し、オリンピック・パラリンピックの価値を後世に伝えていきます。

6. 世界に誇るウィンタースポーツ都市「さっぽろ」へ

○オリンピック・パラリンピックを契機に、札幌・北海道を舞台として、アジアにおけるウィンタースポーツの国際競技力の向上のための拠点づくりを進めます。

○子どもへの教育指導者の育成、ウィンタースポーツの通年利用が可能な施設の整備や、民間企業の支援により、アスリートの育成環境を整えていきます。

○オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、大会前そして大会後も数々の国際大会を開催し、ウィンタースポーツの牽引役としての地位を高めていきます。

○道内自治体と連携し、ウィンタースポーツの魅力を国内外に発信し、ウィンタースポーツツーリズムにより、北海道を活性化させます。

視点3:まちづくり

～北の創造都市「さっぽろ」に向けて～

札幌は、1972年冬季オリンピックを契機として、さまざまな都市基盤の整備が進みました。

再びオリンピックを開催することに加え、初めてのパラリンピックの開催を通じて、1972年前後に整備された都市基盤の更新や、先駆的なまちづくりモデルの提案を行うことで、すべての人にやさしい冬の豊かなライフスタイルを創出することができると考えます。

さらに、札幌市の目指すべき都市像としてのシナリオである「まちづくり戦略ビジョン」と呼応しながら、オリンピック・パラリンピックの誘致により、札幌を新たなステージへ導けるようなまちづくりが重要であると考えます。

7. オリンピック・パラリンピックを契機にまち全体をリニューアル

○オリンピック・パラリンピックを契機に、前回大会に向けて整備された競技施設や真駒内地区をはじめとする既成市街地を官民一体となって再生するなど、共創のまちづくりにより、北海道の活性化、地方創生の起爆剤としての効果を創出します。

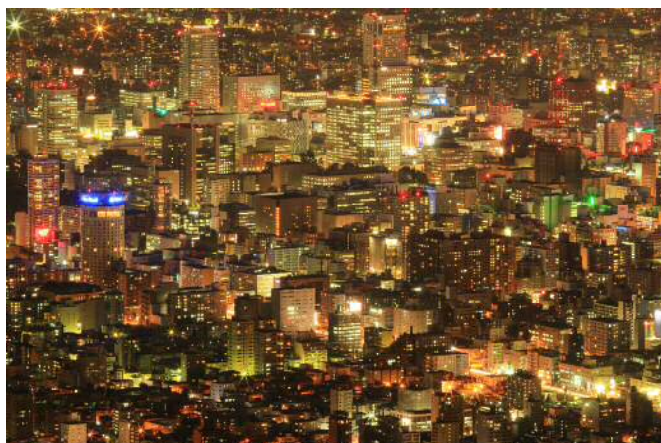
○オリンピック・パラリンピックを契機に、ホテルのグレードアップや民間ビルの建替えを支援し、再開発などの手法を活用しながら、民間投資を促し、まちのリニューアルを進めます。

○オリンピック・パラリンピックを契機に交通ネットワークの充実など、世界からアクセスしやすく誰もが快適に移動できる都市を目指します。

8. 先駆的なまちづくりのモデルを

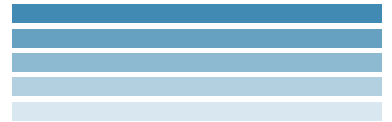
○選手村については、選手の円滑な移動に配慮し、開閉会式会場である札幌ドームと近接させて整備します。また、札幌ドーム周辺にスポーツ科学・医学・情報研究の推進機関や市民利用も含めたスポーツ振興のための機能を整備することで、新たなスポーツ拠点を形成します。

○選手村は、地域内のエネルギーマネジメントの仕組みやユニバーサルデザインを取り入れ、後利用として人と環境にやさしい先駆的なモデルを構築します。





大会コンセプト



開催にあたっての基本姿勢

～「つくる」オリンピックから「つなげる」オリンピック・パラリンピックへ～

1972年冬季オリンピック大会は、インフラや施設整備を行うなど、国際都市さっぽろを「つくる」オリンピックでした。成熟都市として2度目のオリンピック、そしてパラリンピックを目指す札幌は、基本理念と8つのコンセプトを基に、「つなげる」オリンピック・パラリンピックを目指します。

1972年の大会で得たものを活かしつつも、過去と未来がつながる大会とすることや、既存の都市機能と豊かな自然環境を活かして都市と自然がつながる大会とすること等、今後のオリンピック・パラリンピックの新たなモデルとして世界へ提唱していきます。

・過去—つなげる—未来

1972年冬季オリンピックから繋いできたウインタースポーツ都市としての環境・ライフスタイル・誇り・愛着を次世代の子どもたちに継承します。

・都市—つなげる—自然

都市と自然の身近さを活かし、ウインタースポーツを通じて、高度な都市機能と豊かな自然が調和したまちを創っていきます。

・オリンピック—つなげる—パラリンピック

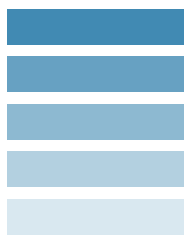
2度目のオリンピックと、初のパラリンピックの開催を契機に、まち全体をハード・ソフトの両面でバリアフリー化し、すべての人にやさしいまちを創ります。

・スポーツ—つなげる—文化・観光・産業・教育

オリンピック・パラリンピックと様々な文化・観光イベント、産業、教育をつなげることで、北の創造都市「さっぽろ」を創ります。

・札幌—つなげる—世界

選手を始め札幌への来訪者との交流や経済交流により、札幌が世界と結びつき、世界平和に貢献します。



競技編

オリンピック

開催期間 2026年2月6日（金）～2026年2月22日（日）

開催日数 17日間

競技数 7競技(98種目) ※新種目の提案を検討します

パラリンピック

開催期間 2026年3月6日（金）～2026年3月15日（日）

開催日数 10日間

競技数 5競技（72種目）



施設整備のコンセプト

1972年大会のレガシー、200万都市札幌の都市機能、北海道の豊かな自然を活かして、アスリートに最高の舞台を提供し、新たなオリンピック・パラリンピックレガシーを創造します。

コンパクト

アスリートや来訪者の移動等に配慮し、コンパクトな施設配置とします。

- ・競技会場は都心から15km圏内に配置（※ ニセコ、帯広、札幌国際スキー場を除く。）
- ・競技施設の9割は選手村から30分以内で移動可能

レガシー

1972年冬季オリンピックでも使用した競技会場の活用やリニューアルとともに、オリンピック・パラリンピックレガシーを未来へ継承していきます。

- ・1972年冬季オリンピックで使用した競技会場11か所のうち、8か所を活用（真駒内、大倉山など）
- ・札幌ドーム周辺をオリンピック・パラリンピックを契機にスポーツパークとして整備

持続可能性

既存施設を最大限活用するとともに、後利用を重視し、大会後も稼働率の高い施設とします。

- ・競技施設については、既設または建替で、新設は「ゼロ」
- ・後利用の多目的化等により稼働率の高い施設を実現

民間資本活用

施設の整備や運営面等において民間活力を取り入れていきます。

- ・再開発などの手法を活用しながらホテルなどの建て替えを支援
- ・民間スキー場の再整備と連携

環境への配慮

都市と自然が融合した環境にやさしい大会を目指します。

- ・最先端の環境技術を駆使した「人と環境にやさしいスポーツビレッジ」としての選手村を計画
- ・道産木材の利用、再生可能エネルギー由来の水素を使用した燃料電池式自動車の導入などによる環境負荷低減

ユニバーサル

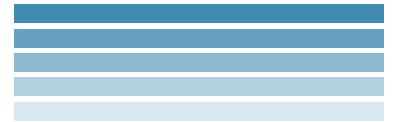
すべての人にやさしい施設整備を進めます。

施設建設にあたっては、整備計画段階から、競技者の視点を取り入れながら進めていきます。

- ・競技会場は国際パラリンピック委員会（IPC）の基準を踏まえたスロープやエレベーターの設置等、誰もが移動しやすい施設とします。
- ・会場へのアクセスとなる交通機関や駅などはアクセシビリティの向上を図ります。



競技プログラム



オリンピック

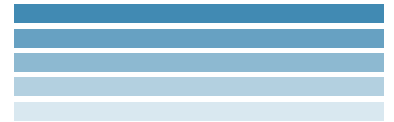
※ソチオリンピック2014の開催競技を想定

競技・種目		会場	種目	2/5 (木)	2/6 (金)	2/7 (土)	2/8 (日)	2/9 (月)	2/10 (火)	2/11 (水)	2/12 (木)	2/13 (金)	2/14 (土)	2/15 (日)	2/16 (月)	2/17 (火)	2/18 (水)	2/19 (木)	2/20 (金)	2/21 (土)	2/22 (日)
開会式・閉会式		札幌ドーム	-		開会式																閉会式
スキー	アルペン	ニセコ	男子回転																		●
			男子大回転															●			
			男子スーパー大回転											●							
			男子滑降					●													
			男子複合										●								
			女子回転																	●	
			女子大回転														●				
			女子スーパー大回転											●							
			女子滑降							●											
			女子複合					●													
	クロス カントリー	白旗山競技場	男子15kmクラシカル									●									
			男子50kmフリー																		●
			男子4×10kmリレー											●							
			男子スプリント					●													
			男子チームスプリント				●										●				
			男子バシュート				●														
			女子10kmクラシカル								●										
			女子30kmフリー																	●	
			女子4×5kmリレー										●								
			女子スプリント					●													
			女子チームスプリント														●				
			女子バシュート			●															
	ジャンプ	・大倉山ジャンプ競技場 ・宮の森ジャンプ競技場	男子ノーマルヒル個人			●															
			男子ラージヒル個人									●									
			男子ラージヒル団体										●								
			女子ノーマルヒル個人					●													
	ノルディック 複合	・円山総合運動場 ・大倉山ジャンプ競技場 ・宮の森ジャンプ競技場	ノーマルヒル個人						●												
			ラージヒル団体															●			
			ラージヒル個人													●					
	フリー スタイル	・サッポロテニスキースタジアム ・札幌国際スキースタジアム ・さっぽろばなけいスキースタジアム	男子モーグル					●													
			男子エアリアル												●						
			男子ハーフパイプ													●					
			男子スキークロス															●			
			男子スロープスタイル								●										
			女子モーグル			●															
			女子エアリアル									●									
			女子ハーフパイプ															●			
			女子スキークロス																●		
			女子スロープスタイル					●													
	スノー ボード	・サッポロテニスキースタジアム ・札幌国際スキースタジアム ・さっぽろばなけいスキースタジアム	男子パラレル大回転														●				
			男子ハーフパイプ						●												
			男子スノーボードクロス												●						
			男子スロープスタイル			●															
			男子パラレル回転																	●	
			女子パラレル大回転														●				
			女子ハーフパイプ							●											
			女子スノーボードクロス											●							
			女子スロープスタイル				●														
			女子パラレル回転																	●	

男子予選	女子予選	チーム/混合予選	男子決勝	女子決勝	チーム/混合決勝	G: ガーラ
------	------	----------	------	------	----------	--------



競技プログラム



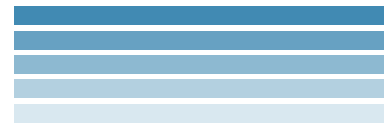
オリンピック

競技・種目		会場	種目	2/5 (木)	2/6 (金)	2/7 (土)	2/8 (日)	2/9 (月)	2/10 (火)	2/11 (水)	2/12 (木)	2/13 (金)	2/14 (土)	2/15 (日)	2/16 (月)	2/17 (火)	2/18 (水)	2/19 (木)	2/20 (金)	2/21 (土)	2/22 (日)	
スケート	スピード スケート	真駒内公園屋外競技場 または 明治北海道十勝オーバル	男子500m					●														
			男子1,000m							●												
			男子1,500m											●								
			男子5,000m			●																
			男子10,000m														●					
			男子チームバシュート																		●	
			女子500m						●													
			女子1,000m								●											
			女子1,500m													●						
			女子3,000m				●															
			女子5,000m															●				
			女子チームバシュート																		●	
	フィギュア スケート	真駒内公園屋内競技場	男子シングル									●									G	
			女子シングル																●		G	
			ペア							●											G	
			アイスダンス													●					G	
			団体	●		●	●									●					G	
	ショート トラック	真駒内公園屋内競技場	男子500m																	●		
			男子1,000m										●									
			男子1,500m					●														
			男子リレー5,000m																	●		
			女子500m									●										
			女子1,000m																	●		
			女子1,500m											●								
女子リレー3,000m														●								
アイスホッケー		・スポーツ交流施設 コミュニティドーム ・月寒体育館	男子																	●		
		女子																●				
ボブ スレー	ボブスレー	サッポロティネ	男子2人乗り												●							
			男子4人乗り																	●		
			女子2人乗り														●					
	スケルトン	サッポロティネ	男子									●										
女子												●										
リュージュ		サッポロティネ	男子1人乗り			●																
			女子1人乗り						●													
			2人乗り							●												
			チームリレー									●										
カーリング		北海きたえーる	男子																	●		
			女子																	●		
バイアスロン		西岡バイアスロン競技場	男子スプリント			●																
			男子15km														●					
			男子20km									●										
			男子バシュート					●														
			男子4×7.5kmリレー																		●	
			女子スプリント				●															
			女子12.5km														●					
			女子15km											●								
			女子バシュート						●													
			女子4×6kmリレー																		●	
		混合リレー														●						

男子予選	女子予選	チーム/混合予選	男子決勝	女子決勝	チーム/混合決勝	G: ガーラ
------	------	----------	------	------	----------	--------



競技プログラム



パラリンピック

※ソチパラリンピック2014の開催競技を想定

競技・種目		会場	種目	3/6 (金)	3/7 (土)	3/8 (日)	3/9 (月)	3/10 (火)	3/11 (水)	3/12 (木)	3/13 (金)	3/14 (土)	3/15 (日)	
開会式・閉会式		札幌ドーム	-	開会式									閉会式	
アルペン スキー	アルペン	ニセコ	男子 回転							●				
			男子 大回転									●		
			男子 スーパー大回転			●								
			男子 滑降		●									
			男子 スーパー複合									●		
			女子 回転							●				
			女子 大回転										●	
			女子 スーパー大回転				●							
			女子 滑降		●									
			女子 スーパー複合									●		
	スノーボード (立位)	サッポロテニスキー場、 札幌国際スキー場、 さっぽろばんけいスキー場のうち いずれか	男子 パラスノーボードクロス									●		
			女子 パラスノーボードクロス									●		
バイアスロン		西岡バイアスロン競技場	男子 7.5km		●									
			男子 12.5km					●						
			男子 15km								●			
			女子 6km		●									
			女子 10km					●						
			女子 12.5km								●			
クロスカントリースキー		白旗山競技場	男子 1 km スプリント						●					
			男子 10km フリー											●
			男子 15km (座位)			●								
			男子 20km クラシカル (立位・視覚障がい)				●							
			女子 1km スプリント						●					
			女子 5km フリー											●
			女子 12km (座位)			●								
			女子 15km クラシカル (立位・視覚障がい)				●							
			4x2.5km 混合リレー (男女・カテゴリー混合)											●
4x2.5km オープンリレー (男女・カテゴリー混合)											●			
アイススレッジホッケー (座位)		月寒体育館	男子									●		
車いすカーリング (座位)		北海きたえーる	混合									●		

※ () がない競技・種目は立位・座位・視覚障がいの3つのカテゴリー

男子予選	女子予選	チーム/混合予選	男子決勝	女子決勝	チーム/混合決勝	G: ガーラ
------	------	----------	------	------	----------	--------

競技会場一覧

オリンピック

競技	種目	競技会場	競技会場以外に想定している練習会場
開会式・閉会式		札幌ドーム	-
スキー	アルペン	ニセコ	朝里川温泉スキー場 キロロ・スノーワールド ルスツリゾート 夕張マウントレースイスキー場 かもい岳スキー場 富良野スキー場 カムイスキーリンクス サホロリゾートスキー場 士別市日向スキー場 士別市あさひスキー場 名寄市ピヤシリスキー場 滝上町桜ヶ丘スキー場 北見市若松市民スキー場 釧路市国設阿寒湖畔スキー場
	クロスカントリー	白旗山競技場	野幌総合運動公園 大滝歩くスキーコース 富沢クロスカントリースキー 旭岳クロスカントリースキーコース 士別市朝日クロスカントリースキーコース チセネシリクロスカントリーコース
	ジャンプ	大倉山ジャンプ競技場 宮の森ジャンプ競技場	士別市朝日三望台ジャンツェ
	ノルディック複合	円山総合運動場 大倉山ジャンプ競技場 宮の森ジャンプ競技場	旭岳クロスカントリースキーコース 名寄市ピヤシリジャンツェ なよろ健康の森クロスカントリーコース
	フリースタイル	サッポロティネススキー場 札幌国際スキー場 さっぽろばんけいスキー場	札幌藻岩山スキー場 藤野野外スポーツ交流施設 (Fu's) 夕張マウントレースイスキー場 サホロリゾートスキー場 名寄市ピヤシリスキー場 美深スキー場 エアリアルコース
	スノーボード	サッポロティネススキー場 札幌国際スキー場 さっぽろばんけいスキー場	藤野野外スポーツ交流施設 (Fu's) ルスツリゾート 夕張マウントレースイスキー場 旭川サンタプレゼントパーク 名寄市ピヤシリスキー場
スケート	スピードスケート	真駒内公園屋外競技場 または 明治北海道十勝オーバル	苫小牧ハイランドスポーツセンター 北見市民スケートリンク 釧路市柳町スピードスケート場 中標津町運動公園
	フィギュアスケート	真駒内公園屋内競技場	美香保体育館 星置スケート場 白鳥王子アイスアリーナ 苫小牧市沼ノ端スケートセンター 苫小牧新ときわスケートセンター 釧路市柳町アイスホッケー場 釧路市春採アイスアリーナ
	ショートトラック	真駒内公園屋内競技場	美香保体育館 星置スケート場 釧路市柳町アイスホッケー場

競技会場一覧

オリンピック

競技	種目	競技会場	競技会場以外に想定している練習会場
アイスホッケー	男子	スポーツ交流施設 コミュニティドーム（つどーむ）	美香保体育館 星置スケート場 白鳥王子アイスアリーナ 苫小牧市沼ノ端スケートセンター 苫小牧新ときわスケートセンター 帯広の森アイスアリーナ
	女子	月寒体育館	帯広の森第二アイスアリーナ 大雪アリーナ 北見市民スケートリンク 釧路市柳町アイスホッケー場 釧路市春採アイスアリーナ 日本製紙アイスアリーナ（釧路アイスアリーナ） 中標津町運動公園
ボブスレー	ボブスレー	サッポロティネ	-
	スkeleton	サッポロティネ	-
リュージュ		サッポロティネ	-
カーリング		北海きたえーる	どうぎんカーリングスタジアム 妹背牛町カーリングホール アドヴィックス常呂カーリングホール
バイアスロン		西岡バイアスロン競技場	旭岳クロスカントリースキーコース 士別市朝日クロスカントリースキーコース

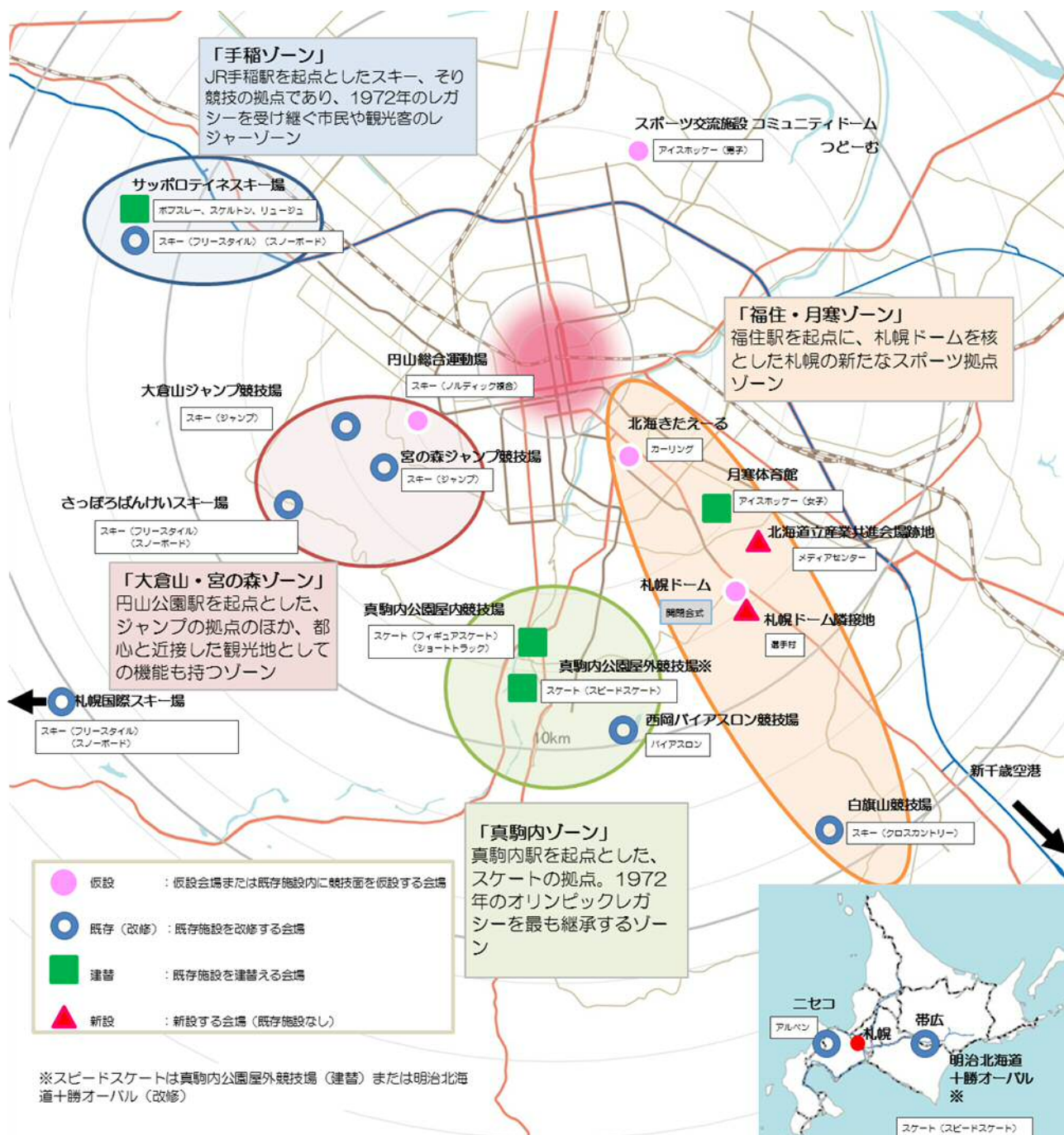
パラリンピック

競技	種目	会場
開会式・閉会式		札幌ドーム
アルペンスキー	アルペン	ニセコ
	スノーボード	サッポロティネスキー場、 札幌国際スキー場、 さっぽろばんけいスキー場のうちいずれか
バイアスロン		西岡バイアスロン競技場
クロスカントリースキー		白旗山競技場
アイススレッジホッケー		月寒体育館
車いすカーリング		北海きたえーる

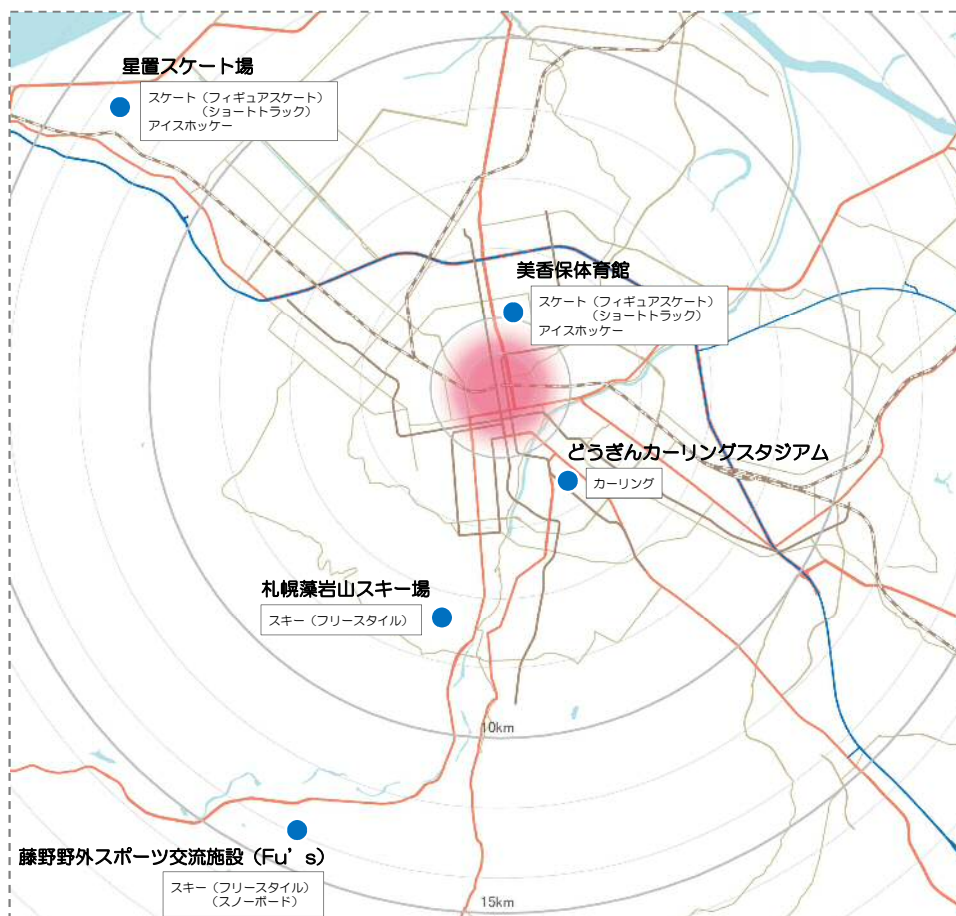
※バイアスロンとクロスカントリーについては同会場での開催を検討

競技会場MAP

1972年大会のレガシーを活かした3つの「メモリアルエリア」（手稲ゾーン、大倉山・宮の森ゾーン、真駒内ゾーン）と、札幌ドームを中心とした新たなスポーツゾーンを形成する「総合スポーツエリア」（福住・月寒ゾーン）で構成。



練習会場MAP



- 選手にとってベストな環境を整えます。
- スポーツコミッションを中心とした調全体制を整え、平昌、北京オリパラを含む合宿誘致に取り組めます。
- 全道各地の魅力が高まるよう、レガシーとしての後利用促進を図っていきます。



※競技会場以外に想定している練習会場のみを表示

練習会場MAP



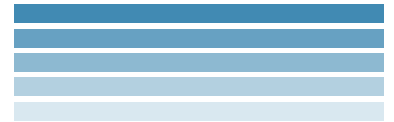
会場間の距離・移動時間一覧表

000.0 距離 (km)		会場No.								
000 移動時間 (分)		1	2	3	4	5	6	7	8	9
会場No.	会場名	札幌ドーム	白旗山競技場	大倉山ジャンプ競技場	宮の森ジャンプ競技場	円山総合運動場	サッポロティネスキー場	札幌国際スキー場	さっぽろばんけいスキー場	真駒内公園屋外競技場
1	札幌ドーム	—	7.7	12.2	12.4	11.0	31.8	61.6	13.7	7.6
		—	17	27	28	24	38	77	29	17
2	白旗山競技場	7.7	—	20.2	20.4	18.9	38.7	68.5	21.6	14.5
		17	—	45	45	42	47	86	48	32
3	大倉山ジャンプ競技場	12.2	20.2	—	1.9	1.7	16.7	46.6	3.1	10.4
		27	45	—	4	4	32	71	7	23
4	宮の森ジャンプ競技場	12.4	20.4	1.9	—	2.4	17.4	47.3	3.1	10.6
		28	45	4	—	5	33	73	7	24
5	円山総合運動場	11.0	18.9	1.7	2.4	—	15.5	45.3	3.6	9.3
		24	42	4	5	—	29	68	8	21
6	サッポロティネスキー場	31.8	38.7	16.7	17.4	15.5	—	42.8	18.6	24.9
		38	47	32	33	29	—	77	36	50
7	札幌国際スキー場	61.6	68.5	46.6	47.3	45.3	42.8	—	49.4	38.0
		77	86	71	73	68	77	—	77	84
8	さっぽろばんけいスキー場	13.7	21.6	3.1	3.1	3.6	18.6	49.4	—	9.1
		29	48	7	7	8	36	77	—	20
9	真駒内公園屋外競技場	7.6	14.5	10.4	10.6	9.3	24.9	38.0	9.1	—
		17	32	23	24	21	50	84	20	—
10	真駒内公園屋内競技場	7.2	14.0	9.9	10.1	8.6	24.0	38.8	9.6	1.3
		16	31	22	22	19	48	86	21	3
11	スポーツ交流施設 コミュニティドーム (つどーむ)	14.8	21.7	12.7	13.4	11.5	19.5	49.2	14.6	16.4
		21	31	28	30	26	29	68	32	36
12	月寒体育館	1.8	9.5	11.4	11.7	10.3	32.0	61.8	12.9	7.5
		4	21	25	26	23	38	77	29	17
13	北海きたえーる	4.7	12.6	9.1	9.3	7.6	23.5	53.1	10.6	7.0
		10	28	20	21	17	38	77	24	16
14	西岡バイアスロン競技場	7.2	13.9	14.9	15.1	13.7	38.5	41.2	13.9	5.7
		16	31	33	34	30	53	92	31	13
15	ニセコ	93.8	102.0	103.0	104.0	102.0	99.1	88.1	92.5	87.2
		123	133	122	123	120	122	115	121	114
16	明治北海道十勝オーバル	183.0	183.0	207.0	208.0	206.0	211.0	241.0	199.0	191.0
		138	138	155	157	154	156	184	158	148
17	選手村 (札幌ドーム隣接地)	0.5	7.2	12.7	12.9	11.5	32.2	61.8	14.2	8.1
		1	16	28	29	26	39	77	30	18
18	メディアセンター (北海道立産業共進会場跡地)	1.9	9.3	12.9	13.1	11.2	30.9	60.7	16.9	8.5
		4	21	29	29	25	36	75	38	19
19	空港／新千歳空港	42.0	41.7	65.6	66.3	64.7	70.2	99.9	68.9	49.4
		52	52	70	72	68	75	108	78	69
20	JR札幌駅	8.8	17.8	6.8	7.5	5.0	19.1	48.9	8.7	9.8
		20	40	15	17	11	29	68	19	22

※会場間の最短時間ルートの距離、移動時間を表示。移動時間は、札幌市内の高速道路・一般道路別平均速度および北海道内（札幌市を除く）の高速道路・一般道路別平均速度に基づき算出。



会場間の距離・移動時間一覧表



会場No.

10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	会場No.
真駒内公園屋 内競技場	スポーツ交流 施設コミュニ ティドーム (つどーむ)	月寒体育館	北海きたえー る	西岡 バイアスロン 競技場	ニセコ	明治北海道十 勝オーバル	選手村 (札幌ドーム 隣接地)	メディア センター (北海道立産 業共進会場跡 地)	空港/ 新千歳空港	JR札幌駅	
7.2	14.8	1.8	4.7	7.2	93.8	183.0	0.5	1.9	42.0	8.8	1
16	21	4	10	16	123	138	1	4	52	20	
14.0	21.7	9.5	12.6	13.9	102.0	183.0	7.2	9.3	41.7	17.8	2
31	31	21	28	31	133	138	16	21	52	40	
9.9	12.7	11.4	9.1	14.9	103.0	207.0	12.7	12.9	65.6	6.8	3
22	28	25	20	33	122	155	28	29	70	15	
10.1	13.4	11.7	9.3	15.1	104.0	208.0	12.9	13.1	66.3	7.5	4
22	30	26	21	34	123	157	29	29	72	17	
8.6	11.5	10.3	7.6	13.7	102.0	206.0	11.5	11.2	64.7	5.0	5
19	26	23	17	30	120	154	26	25	68	11	
24.0	19.5	32.0	23.5	38.5	99.1	211.0	32.2	30.9	70.2	19.1	6
48	29	38	38	53	122	156	39	36	75	29	
38.8	49.2	61.8	53.1	41.2	88.1	241.0	61.8	60.7	99.9	48.9	7
86	68	77	77	92	115	184	77	75	108	68	
9.6	14.6	12.9	10.6	13.9	92.5	199.0	14.2	16.9	68.9	8.7	8
21	32	29	24	31	121	158	30	38	78	19	
1.3	16.4	7.5	7.0	5.7	87.2	191.0	8.1	8.5	49.4	9.8	9
3	36	17	16	13	114	148	18	19	69	22	
—	15.3	6.8	6.1	5.2	88.0	190.0	7.7	7.8	49.0	8.9	10
—	34	15	14	12	115	147	17	17	68	20	
15.3	—	15.0	9.8	21.5	105.0	194.0	15.2	13.4	53.2	7.7	11
34	—	22	22	36	124	142	22	27	53	17	
6.8	15.0	—	3.3	7.2	93.7	187.0	2.3	1.5	45.5	7.5	12
15	22	—	7	16	122	140	5	3	53	17	
6.1	9.8	3.3	—	8.3	94.0	189.0	5.2	4.8	48.0	4.8	13
14	22	7	—	18	123	143	12	11	59	11	
5.2	21.5	7.2	8.3	—	90.5	190.0	7.7	8.0	48.9	13.8	14
12	36	16	18	—	118	147	17	18	68	31	
88.0	105.0	93.7	94.0	90.5	—	289.0	94.3	95.8	111.0	105.0	15
115	124	122	123	118	—	256	123	125	145	121	
190.0	194.0	187.0	189.0	190.0	289.0	—	182.5	186.0	157.0	200.0	16
147	142	140	143	147	256	—	137	139	122	148	
7.7	15.2	2.3	5.2	7.7	94.3	182.5	—	2.4	41.5	9.3	17
17	22	5	12	17	123	137	—	5	51	21	
7.8	13.4	1.5	4.8	8.0	95.8	186.0	2.4	—	40.9	8.8	18
17	27	3	11	18	125	139	5	—	49	20	
49.0	53.2	45.5	48.0	48.9	111.0	157.0	41.5	40.9	—	54.4	19
68	53	53	59	68	145	122	51	49	—	55	
8.9	7.7	7.5	4.8	13.8	105.0	200.0	9.3	8.8	54.4	—	20
20	17	17	11	31	121	148	21	20	55	—	

日本最北の全天候型ドームで開閉会式を開催

札幌ドーム



2001年にオープンし、2002年サッカー日韓ワールドカップや2007年ノルディックスキー世界選手権等において競技会場として使用された既存の札幌ドームを開閉会式会場として利用します。



会場名	札幌ドーム
所在地	札幌市豊平区羊ヶ丘
整備手法	仮設
敷地面積	305,230m ²
建築面積	55,168m ²
延床面積	98,232m ²
観客席数	固定席：41,484席 最大収容人数：53,738人

開会式／閉会式

建設コンセプト

都市の中にありながら北海道らしい自然の広がる札幌の丘陵に、北海道最大、そして日本最北の全天候型ドームとして開業し、サッカーと野球2つのプロチームの本拠地となっている世界でも数少ない多目的スタジアムです。

運営機能

札幌の中心市街地へのアクセスが良く、観客のアクセスは主に地下鉄の利用を想定します。

地下鉄駅からは、安全かつ高揚感のあるアクセスルートを整備します。更に、選手・関係者の動線との交錯がないよう配慮します。

駐車場

普通車：1,434台、大型車：17台

環境

札幌ドームは「環境方針」に基づき、利用者の協力により、未来の子どもたちのために「環境にやさしい施設」を目指す活動に取り組んでいます。

（環境方針）

私たちは、みらいの子供たちに美しい地球を残し、札幌ドームを環境にやさしい施設として維持し続けることを使命として、訪れるすべてのお客さまとともに、よりよい環境づくりに向けて取り組みます。

（2008年3月策定）

後利用

2026年大会後も引き続き、スポーツ&エンターテインメントの発信地として活用します。

安全対策

4万人を超える大観衆を受け入れる施設として、万全の警備・危機管理体制を提供します。金属探知システムや最先端の生体認証システムを活用した入場管理システムを導入するとともに、会場全体の監視システムを導入し、十分な安全対策を講じます。

また、観客動線と完全に分離した車両動線を敷地内に整備することで、緊急時のスムーズな対応や雑踏事故を防ぐ計画とします。

交通輸送

選手村	0.5 km / 1 min
新千歳空港	42.0 km / 52 min
JR札幌駅	8.8 km / 20 min

● 仮設
● 既存（改修）
■ 建替
▲ 新設



世界有数のリゾートで新たなレガシーを

ニセコ



ニセコ地区は1960年代から開発が進み、いまでは大規模な民間リゾートが複数整備されています。海外から注目されるリゾート地で、継続的に開発投資が進み、現在では国際的に開かれた、リゾート地の代表的役割を担っています。

標高1,308mのニセコアンヌプリを利用した大規模なスキー場が展開され、最長滑走距離5,000mを誇るコースから初心者コースまで、広く愛好者から親しまれています。

平成26年9月、国道393号が全線開通し、高速道路の整備など札幌市内からのアクセス性が向上しています。また、北海道新幹線の延伸も計画されており、ニセコ地区全体がより活性化が図られています。

競技会場	ニセコ
所在地	北海道虻田郡倶知安町、ニセコ町
整備手法	既存改修
競技施設	標高差：930m～960m、 全長：3,000m以上
観客席数	固定席：8,000席、立見席：10,000席

スキー・アルペン（回転、大回転、スーパー大回転、滑降）

建設コンセプト

冬季オリンピックで最もダイナミックでエキサイティングな競技である滑降は、大規模なスキー場において、北海道らしさを世界に発信する配置・施設計画が必要です。

メイン会場となる札幌市とのアクセス性、各種サービス施設の展開性、アルペン競技場としての自然条件を最大限活かし、競技・観戦空間を創出します。

運営機能

ニセコのスキー場特性を活かし、アルペン滑降コースを効率良く配置します。また、既存の施設を巧みに利用する計画立案により、選手・競技関係者・観客すべての需要に効率的で快適なサービスを提供します。

競技関連諸室：4,100㎡／
オリンピックファミリー用諸室：600㎡／
メディア用諸室：6,900㎡／運営用諸室：6,200㎡／
その他諸室：2,900㎡

環境

競技コースは可能な限り既存グレンデで実施します。また、各種サービス施設は、現施設空間を効率的に利用し、環境にやさしい整備を実現します。

選手を初めとしたすべての利用者への十分なサービスと、安全・安心の提供を目的に整備を進めます。

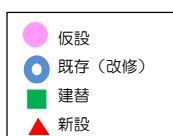
仮設により発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

最先端の生態認証システムを活用した入場監視システムを導入するとともに、山側からの進入を防ぐために必要な設備や警備員を配置し、エリア帯を24時間体制で広域的に監視する体制を整えます。

交通輸送

選手村	周辺の宿泊施設を活用
新千歳空港	111.0 km / 145 min
JR札幌駅	105.0 km / 121 min



駐車場

普通車：436台

後利用

ホテルなど既存施設の活用を前提とします。

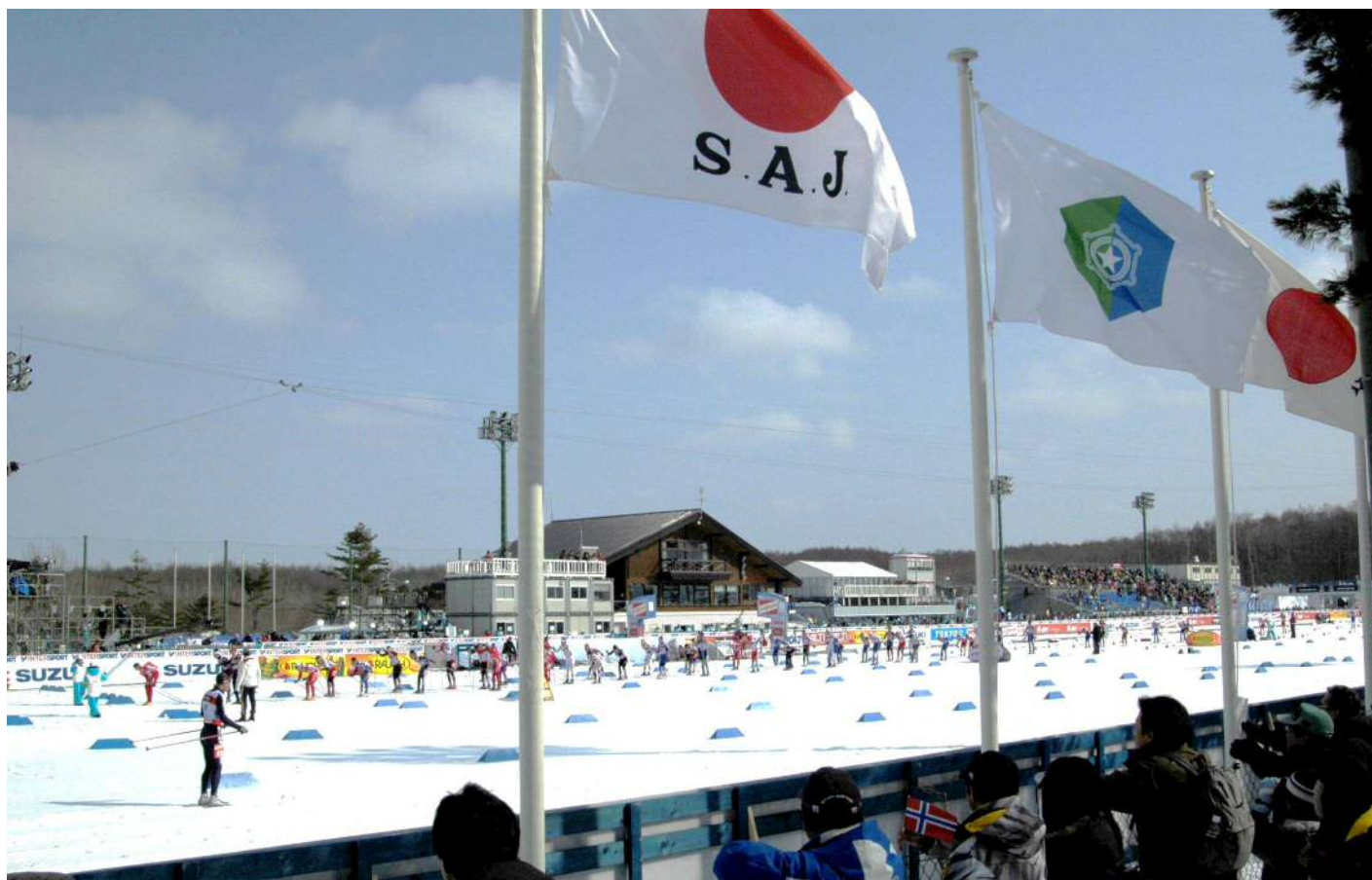
また、オリンピック開催会場となることで、これまで以上に世界からの認知度が高まることも見込まれ、民間投資の促進を図ります。



スキー・クロスカントリー

起伏に富んだアジア初のFIS公認コースを使用
スキーの総合的走力をダイナミックに競い合う会場を整備

白旗山競技場



白旗山競技場は本格的なクロスカントリー・スキー距離競技場として、1990年12月に完成しました。全長25kmの起伏に富んだコースは、第2回冬季アジア競技大会を皮切りに、ユニバーシアード冬季大会や2007年FISノルディックスキー世界選手権札幌大会など、いくつもの国際大会の開催実績を有します。

2026年札幌大会時には、クロスカントリースキーの会場となり、多くの観客が訪れます。

競技会場	白旗山競技場
所在地	札幌市清田区真栄
整備手法	既存改修
競技施設	全長：25km コース長：一周2.5km、3.3km、3.75km、5.0km
観客席数	固定席：3,000席、立見席：10,000席

スキー・クロスカントリー

建設コンセプト

都市に隣接する起伏に富んだ樹林地を活用して、美しい自然風景の中で総合的な走力を競うことのできるコースを整備します。既存のコースをリノベーションすることで、環境への負荷を最小限に抑えます。

運営機能

選手村から16分という好立地は、移動による選手への負担を抑えます。観客のアクセスには地下鉄駅等から発着するシャトルバスを運行します。

競技関連諸室：6,800㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：6,900㎡／運営用諸室：6,100㎡／その他諸室：2,800㎡

環境

会場の整備に伴う森林伐採は極力行わず、選手・関係者・観客等が安全・安心に、雪山で滞在できることを目的とした整備を行います。

仮設により発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

最先端の生態認証システムを活用した入場監理システムを導入するとともに、山側からの進入を防ぐために必要な設備や警備員を配置し、エリア帯を24時間体制で広域的に監視する体制を整えます。

交通輸送

選手村	7.2 km / 16 min
新千歳空港	41.7 km / 52 min
JR札幌駅	17.8 km / 40 min

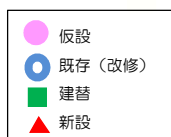
駐車場

普通車：366台



後利用

2026年のオリンピックをはじめとする数々の世界選手権を経験した白旗山競技場は、世界から注目されつづけるノルディックスキー場の拠点として活用されます。



街に向かって飛び立つ札幌人気の観光スポット

大倉山ジャンプ競技場



大倉山ジャンプ競技場は1931年に開設以来、数々の世界的な大会が行なわれてきています。特に、1972年の札幌冬季オリンピックでの利用は、世界中へその存在を認知される契機となり、世界中のジャンパーから愛される競技場の一つとなりました。

また敷地内のウィンタースポーツミュージアムは、冬のスポーツ文化やオリンピック教育の拠点となっています。

札幌市内を一望できる立地のため、市内を眺望する景勝地としても親しまれており、広く世界中の方にレジェンドとして伝えられる競技場です。

競技会場	大倉山ジャンプ競技場
所在地	札幌市中央区宮の森
整備手法	既存改修
敷地面積	111,000㎡
競技施設	K点：120m、ヒルサイズ：134m
観客席数	固定席 3,000席、立見席：10,000席

建設コンセプト

札幌市内を一望できる伝統あるジャンプ競技場を、より強い印象を持って世界に伝えることのできる配置・施設計画とします。

都心に近接したメリットを最大限活かし、各種オリンピック施設との効率的・円滑な連携を実現し、選手・関係者にとって快適な競技空間を創出するほか、観客が気軽に競技に触れることのできる空間を整備します。

既存施設の必要最小限の改修と、関連工事の実現により、「環境の時代」のオリンピック施設の象徴とします。

運営機能

歴史あるジャンプ競技場の改修と既存施設を効率的に利用する計画により、運営機能のコンパクト化を目指します。また、選手・関係者への負荷を低減する確かな施設計画を行なうとともに、観客動線・サービス施設の充実を図ります。

競技関連諸室：3,300㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：6,900㎡／運営用諸室：6,200㎡／その他諸室：2,900㎡

環境

ラージヒルの一部改修にあたっては、地形特性を十分に活かし、大規模な工事を削減した計画とします。各種サービス施設の配置計画も、現施設空間を効率的に利用し、環境にやさしい整備を実現します。

選手をはじめとしたすべての利用者への十分なサービスと、安全・安心の提供を目的に整備を進めます。

仮設により発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

最先端の生態認証システムを活用した入場監理システムを導入するとともに、山側からの進入を防ぐために必要な設備や警備員を配置し、エリアー帯を24時間体制で広域的に監視する体制を整えます。

交通輸送

選手村	12.7 km / 28 min
新千歳空港	65.6 km / 70 min
JR札幌駅	6.8 km / 15 min

駐車場

普通車：366台



後利用

競技人口を支える新たな施設としての役割、観光景勝地としての交流人口の増加が期待されます。また、歴史を踏襲した改修整備により大倉山のレジェンドを改めて世界に発信することとなります。



札幌オリンピックの輝かしい記録が刻まれたレガシー

宮の森ジャンプ競技場



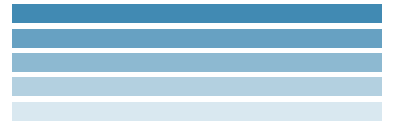
宮の森ジャンプ競技場は1970年に開設されて以来、数々の世界的な大会が行なわれてきています。特に、1972年に開催された札幌冬季オリンピックの70m級ジャンプ競技では、日本人選手が金・銀・銅メダルを独占したことで世界中へその存在を認知される競技場の一つとなりました。

札幌都心部から近い立地であることから、多くの観客が訪れ、大倉山ジャンプ競技場と並び、広く世界中の方にレジェンドとして伝えられる競技場です。

競技会場	宮の森ジャンプ競技場
所在地	札幌市中央区宮の森1条18丁目
整備手法	既存改修
敷地面積	62,000㎡
競技施設	K点：90m、ヒルサイズ：100m
観客席数	固定席 3,000席、立見席：10,000席



スキー・ジャンプ（ノーマルヒル） スキー・ノルディック複合（ジャンプ）



建設コンセプト

伝統あるジャンプ競技場を、より強い印象を持って世界に伝えることのできる配置・施設計画とします。
都心に近接したメリットを最大限活かし、各種オリンピック施設との効率的・円滑な連携を実現し、選手・関係者にとって快適な競技空間を創出するほか、観客が気軽に競技に触れることのできる空間を整備します。
既存施設の必要最小限の改修と、関連工事の実現により、「環境の時代」のオリンピック施設の象徴とします。

運営機能

歴史あるジャンプ競技場の改修と既存施設を効率的に利用する計画により、運営機能のコンパクト化を目指します。また、選手・関係者への負荷を低減する確かな施設計画を行なうとともに、観客動線・サービス施設の充実を図ります。

競技関連諸室：3,300㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：6,900㎡／運営用諸室：6,200㎡／その他諸室：2,900㎡

環境

ノーマルヒルの一部改修にあたっては、地形特性を十分に活かし、大規模な工事を削減した計画とします。各種サービス施設の配置計画も、現施設空間を効率的に利用し、環境にやさしい整備を実現します。
選手をはじめとしたすべての利用者への十分なサービスと、安全・安心の提供を目的に整備を進めます。
仮設により発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

最先端の生態認証システムを活用した入場監理システムを導入するとともに、山側からの進入を防ぐために必要な設備や警備員を配置し、エリア帯を24時間体制で広域的に監視する体制を整えます。

交通輸送

選手村	12.9 km / 29 min
新千歳空港	66.3 km / 72 min
JR札幌駅	7.5 km / 17 min



駐車場

普通車：366台



後利用

歴史を踏襲した改修整備により、宮の森のレジェンドを改めて世界に発信することとなります。



スキー・ノルディック複合（クロスカントリー）

ジャンプ会場に近く、2つのスタジアムを活用した仮設コース

円山総合運動場



円山総合運動場は、1934年に陸上競技場が開業し、その後硬式野球場、テニスコート等の整備が進められた札幌市民・北海道民に親しまれる空間です。

既存施設の高低を利用した新しいクロスカントリーコースの検討を行ないます。

競技場の特性から、観客席等の設置は十分な規模で整備されているため、低コストで個性的なクロスカントリーコースの整備が可能です。

競技会場	円山総合運動場
所在地	札幌市中央区宮が丘
整備手法	仮設
敷地面積	110,000㎡
競技施設	コース長：一周2.5km
観客席数	固定席：3,000席、立見席：10,000席

スキー・ノルディック複合（クロスカントリー）

建設コンセプト

競技場設置に係る工事の削減、環境への負荷低減を考慮した場合、既存で利用できる空間を魅力的なクロスカントリーコースに設定することが必要です。

さらに、メイン会場とのアクセス性、各種サービス施設の展開性においては、陸上競技場等の利用を前提とすることは、大会の趣旨にも合致するものです。

選手・関係者・観客すべてにとって、身近で気軽な競技空間を提供します。

運営機能

総合運動公園として、現に有する機能を最大限活用します。既存施設の有効利用計画に加え、補完施設の計画を効果的に実施します。

すべての方に、新鮮で親しみ易い空間提供を第一に計画します。

競技関連諸室：3,200㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：6,900㎡／運営用諸室：6,100㎡／その他諸室：2,900㎡

環境

基本的に新たな工事は行われないため、環境への負荷は最小限に抑えることが可能です。既存施設の巧みな連携と、補完施設の効果的な計画により、環境に優しい競技空間の設置を行いつつ、十分なサービスと安全・安心の提供が実現できます。

仮設により発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

最先端の生態認証システムを活用した入場監視システムを導入するとともに、外部からの進入を防ぐために必要な設備や警備員を配置し、エリア帯を24時間体制で広域的に監視する体制を整えます。

交通輸送

選手村	11.5 km / 26 min
新千歳空港	64.7 km / 68 min.
JR札幌駅	5.0 km / 11 min

駐車場

普通車：366台



後利用

大会前と同様に、陸上競技場、野球場、テニスコートとして利用されます。オリンピック競技に使用された空間として、札幌市民・北海道民に新たな誇りを生み出します。



アクセスの良い都市型スキー場から
雪上の華麗な演技と観客の熱気を世界へ

サッポロテイネスキー場・札幌国際スキー場・さっぽろばんけいスキー場



サッポロテイネスキー場は、1972年札幌大会の際、スキーアルペン競技の回転、大回転の会場として利用されました。

札幌国際スキー場は道内有数の温泉地である定山溪温泉からほど近く、北海道でも屈指のパウダースノーと広大なグレンデが自慢です。

さっぽろばんけいスキー場は都心から20分でアクセスでき、フリースタイルやスノーボードのアジア大会、ワールドカップが開催されています。

2026年札幌大会時にこれらのスキー場は、フリースタイル及びスノーボード競技の会場となり、多くの観客が訪れます。

競技会場	サッポロテイネスキー場 札幌国際スキー場 さっぽろばんけいスキー場
所在地	札幌市手稲区手稲金山 札幌市南区定山溪 札幌市中央区盤溪
整備手法	既存改修
競技施設	コース長：930m（スロープスタイル）、920m（クロス・スノーボードクロス）、700m（パラレル大回転）、440m（パラレル回転）、265m（モーグル）、165m（ハーフパイプ）、115m（エアリアル）
観客席数	固定席：4,000席、立見席：10,000席

建設コンセプト

市街地への眺望や市街地からの眺望を生かした都市との一体感、フリースタイルやスノーボードならではの躍動感が感じられる会場を整備します。

トップアスリートやトップアスリートに憧れて世界から集まった観客が、安全に安心して観戦を楽しむことができる屋外空間の整備を行います。

運営機能

観客は都心から専用バスなどにより、容易にアクセスできるよう検討します。また、会場が山の斜面に立地するため、車椅子利用者等へのサポート体制の充実や、リフト等による観客輸送設備の充実を図ります。

競技関連諸室：4,000㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡

／メディア用諸室：6,700㎡／運営用諸室：6,200㎡

／その他諸室：2,900㎡

環境

会場の整備に伴う森林伐採は極力行わない計画とします。仮設により発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

最先端の生態認証システムを活用した入場監理システムを導入するとともに、山側からの進入を防ぐために必要な設備や警備員を配置し、エリア帯を24時間体制で広域的に監視する体制を整えます。

交通輸送

サッポロ テイネ スキー場	選手村	32.2 km / 39 min
	新千歳空港	70.2 km / 75 min
	J R 札幌駅	19.1 km / 29 min
札幌国際 スキー場	選手村	61.8 km / 77 min
	新千歳空港	99.9 km / 108 min
	J R 札幌駅	48.9 km / 68 min
さっぽろ ばんけい スキー場	選手村	14.2 km / 30 min
	新千歳空港	68.9 km / 78 min
	J R 札幌駅	8.7 km / 19 min

駐車場

普通車：サッポロテイネスキー場

356台

札幌国際スキー場

356台

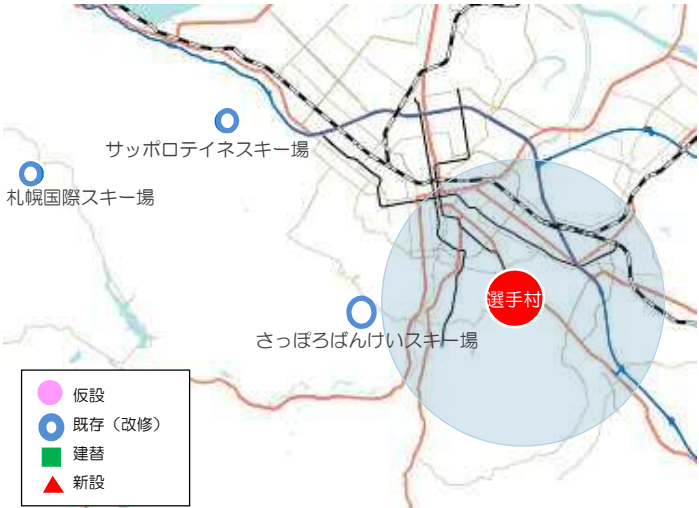
さっぽろばんけいスキー場

356台



後利用

2026年大会後には、フリースタイルやスノーボードの技術を磨きたい若者や、その華麗な技に憧れる若者が世界中から集まるスキー場として活用されます。



1972年札幌オリンピックの記憶を継承する、スケート競技会場

真駒内公園屋外競技場（候補地1）



1972年札幌オリンピック冬季競技大会にて、開会式とスピードスケート競技会場として使用された真駒内屋外競技場を、屋根付きのスピードスケート競技会場としてリニューアルします。

2026大会時には、市内中心部からのアクセス性の良さを生かし、6,000人の観客を収容する会場となります。

競技会場	真駒内公園屋外競技場
所在地	札幌市南区真駒内公園
整備手法	建替
敷地面積	39,100㎡
延床面積	40,300㎡（予定）
競技施設	400mトラック
観客席数	固定席：6,000席

スケート・スピードスケート

建設コンセプト

既存のリンク形状を新設するオーバルに適用させることで、リンク全体を囲う臨場感あふれる空間を創出し、1972年札幌オリンピックのレガシーを継承する施設として整備します。

選手・関係者・観客のすべてが、安全かつ快適に移動し、利用できることを目的とした配置・動線計画とします。

運営機能

観客は地下鉄等の公共交通機関による来場を想定し、選手や関係者との交錯を最小限にします。

地下鉄駅からは、安全かつ高揚感のあるアクセスルートを整備します。更に、選手・関係者の動線との交錯がないよう配慮します。

競技関連諸室：1,800㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：4,900㎡／運営用諸室：6,200㎡／その他諸室：2,700㎡

環境

会場の整備に伴う、公園内の既存の樹木・植栽の伐採は極力行わず、1972年大会のレガシーを継承することを目的とした整備を行います。

既存施設の解体および新設施設の建設時に発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するとともに、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

会場内は選手や大会関係者など、クライアント同士の交錯及び不審者や無関係者の侵入を防ぐため、認証カード等による入場監理を行います。また、会場はセキュリティエリアにより管理され、最先端の生体認証システムを活用した入場監理システム、会場全体の監視システムを導入し、十分な安全対策を講じます。

交通輸送

選手村	8.1 km / 18 min
新千歳空港	49.4 km / 69 min
JR札幌駅	9.8 km / 22 min

- 仮設
- 既存（改修）
- 建替
- ▲ 新設

駐車場

普通車：351台



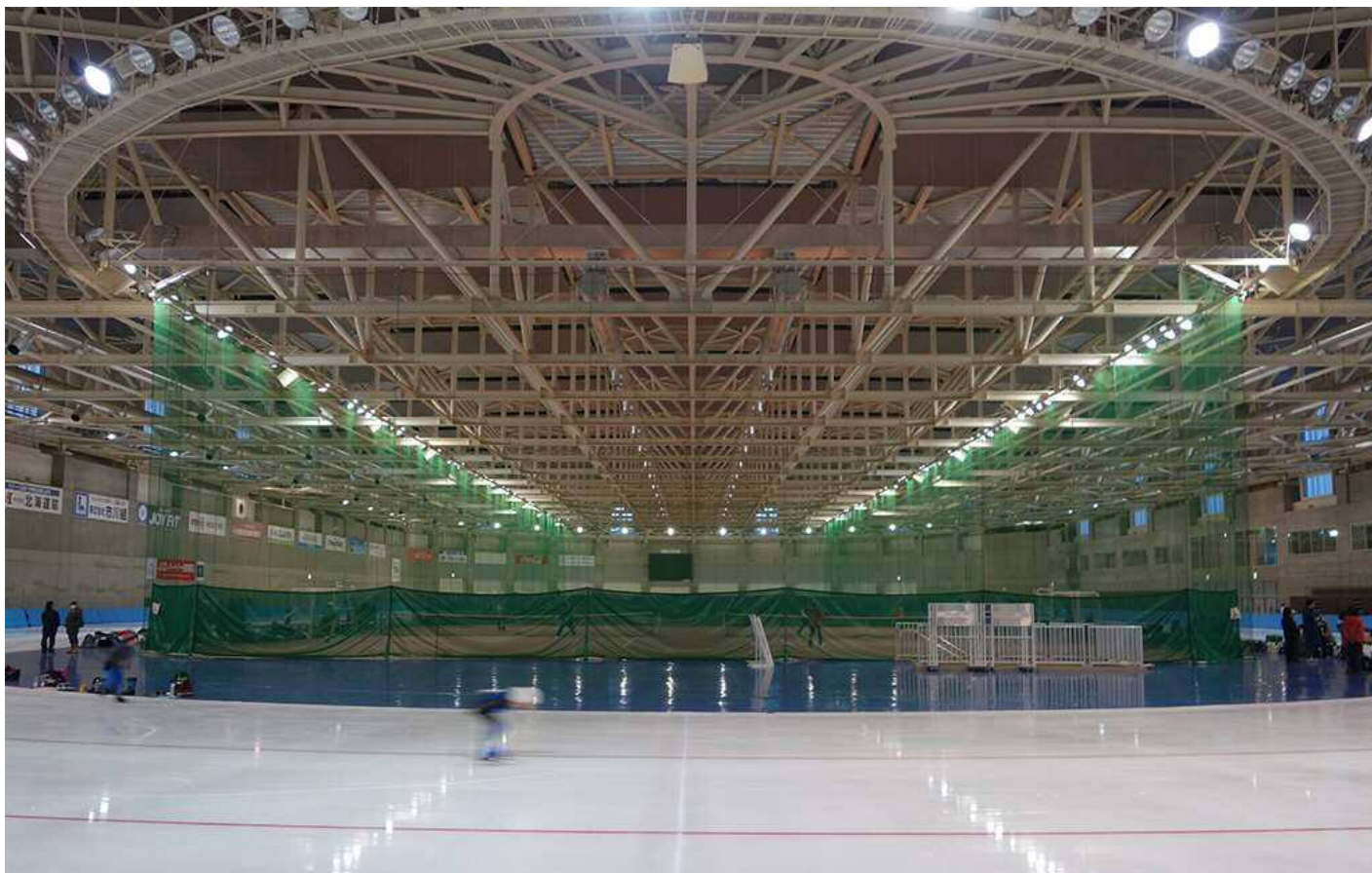
後利用

2026年大会後も、札幌のスケート文化の発信地として、冬はスピードスケートのほかフィギュアスケートやショートトラック、夏は他の競技・展示場・イベントホールとしての利用など、永く市民・道民に愛される施設となります。



既存施設を有効活用した、良質なスケート競技会場

明治北海道十勝オーバル（候補地２）



自然条件に左右されず、通年利用が可能な屋内リンク施設として整備された明治北海道十勝オーバルを、一部改修して利用します。

2026大会時には、6,000席を確保した競技会場とし、大会後はスピードスケートの拠点として、また、通年利用のスポーツ施設となります。

競技会場	明治北海道十勝オーバル
所在地	帯広市南町南7線
整備手法	既存改修
敷地面積	104,900㎡
建築面積	18,088.15㎡
延床面積	19,218.38㎡
競技施設	400mトラック
観客席数	固定席：6,000席

スケート・スピードスケート

建設コンセプト

良質なリンクを有する既存の施設を最大限に活かします。既存座席周縁に5,000人分の仮設席を設計し、白熱したスピードスケート競技を間近で観戦できる空間を整備します。

選手・関係者・観客のすべてが、安全かつ快適に移動し、利用できることを目的とした配置・動線計画とします。

運営機能

種々のスポーツ施設が一体的に整備され、スポーツの拠点として広く認識される帯広の森運動公園内にある会場であり、観客のアクセスは主にバスの利用を想定します。

バス停留所からは、安全かつ高揚感のあるアクセスルートを整備します。更に、選手・関係者の動線との交錯がないよう配慮します。

競技関連諸室：1,800㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：4,900㎡／運営用諸室：6,200㎡／その他諸室：2,700㎡

環境

会場の整備に伴う、帯広の森運動公園内の既存の樹木・植栽の伐採は極力行わず、既存の景観を活かした整備を行います。

既存施設の解体および新設施設の建設時に発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するとともに、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

会場内は選手や大会関係者など、クライアント同士の交錯及び不審者や無関係者の侵入を防ぐため、認証カード等による入場監理を行います。また、会場はセキュリティエリアにより管理され、最先端の生態認証システムを活用した入場監理システム、会場全体の監視システムを導入し、十分な安全対策を講じます。

交通輸送

選手村	182.5 km / 137 min
新千歳空港	157.0 km / 122 min
JR札幌駅	200.0 km / 148 min

- 仮設
- 既存（改修）
- 建替
- ▲ 新設

駐車場

普通車：351台



後利用

2026年大会後には、中地を利用した多目的なスポーツ施設として通年利用されるとともに、スピードスケート場として活用されます。



豊かな景観を生かした、大会最大規模の会場として計画

真駒内公園屋内競技場

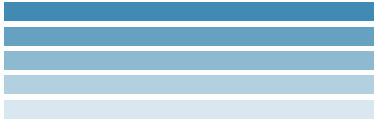


1972年札幌大会では、閉会式、フィギュアスケート・アイスホッケーの競技会場として使用された真駒内屋内競技場を、フィギュアスケート・ショートトラックの競技会場として建て替え、リニューアルを行います。

2026年札幌大会期間中は、札幌市内中心部からのアクセス性の良さを活かし、全競技で最大規模の12,000席を有する会場となります。

競技会場	真駒内公園屋内競技場
所在地	札幌市南区真駒内公園
整備手法	建替
敷地面積	50,000㎡
競技施設	リンクサイズ：30m×60m
観客席数	固定席：12,000席

スケート・フィギュアスケート スケート・ショートトラック



建設コンセプト

真駒内公園の既存の景観を活かし、1972年札幌オリンピックのレガシーを継承する施設として整備します。
12,000席の会場は、選手・関係者・観客のすべてが安全かつ快適に移動し、利用できる配置・動線計画とします。

運営機能

観客は地下鉄等の公共交通機関による来場を想定し、選手や関係者との交錯を最小限にします。また、会場内各運営諸室はクライアント別に快適で動きやすい配置計画とします。

競技関連諸室：1,900㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：6,700㎡
運営用諸室：5,600㎡／その他諸室：2,600㎡

環境

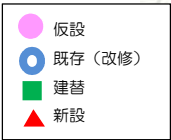
会場の整備に伴う、公園内の既存の樹木・植栽の伐採は極力行わず、1972年札幌大会のレガシーを継承することを目的とした計画とします。
既存施設の解体および新設施設の建設時に発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

会場内は選手や大会関係者など、クライアント同士の交錯及び不審者や無関係者の侵入を防ぐため、認証カード等による入場監理を行います。また、会場はセキュリティエリアにより管理され、最先端の生体認証システムを活用した入場監理システム、会場全体の監視システムを導入し、十分な安全対策を講じます。

交通輸送

選手村	7.7km / 17min
新千歳空港	49.0km / 68min
J R札幌駅	8.9km / 20 min



駐車場

普通車：366台



後利用

2026年札幌大会後も、札幌のスケート文化の発信地として、永く市民・道民に愛されるスケートリンクを目指します。また、夏場はイベントや展示会等の開催など、1年中賑わう多目的アリーナとなります。



アイスホッケー（男子）

市民に愛されてきたドーム施設を、氷上の格闘技の熱い戦いを世界に伝える会場に

スポーツ交流施設 コミュニティドーム（つどーむ）



スポーツ交流施設コミュニティドームは、全天候型施設としてスポーツだけでなく、式典やイベントでも利用され、「つどーむ」の愛称で市民から親しまれています。

2026大会時には10,000席を有するアイスホッケー（男子）の会場として熱戦の舞台となります。

競技会場	スポーツ交流施設 コミュニティドーム（つどーむ）
所在地	札幌市東区栄町
整備手法	仮設
敷地面積	135,889㎡
競技施設	リンクサイズ：30m×60m
観客席数	固定席：10,000席

アイスホッケー（男子）

建設コンセプト

ドームを有する既存の施設を最大限に活かす施設整備とします。仮設のアイスマットをセットするとともに、既存座席上部に10,000人分の仮設席を用意し、迫力あるアイスホッケーの試合を間近で観戦できる空間を整備します。また、建物周囲の広場等を有効活用し、運営諸室等を適切に配置します。

運営機能

観客は地下鉄等の公共交通機関による来場を想定し、選手や関係者との交錯を最小限にします。

さらに、会場内各運営諸室はクライアント別に快適で動きやすい配置計画とします。

競技関連諸室：3,700㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：4,700㎡／運営用諸室：6,200㎡／その他諸室：2,300㎡

駐車場

普通車：380台

環境

既存施設を最大限に使い、大規模な解体・建設を行わないことで、環境に配慮した施設計画とします。

仮設・改修により発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

後利用

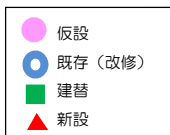
既存施設であるスポーツ交流施設コミュニティドーム（つどーむ）は、2026年札幌大会の競技会場として注目され、これまで以上に、市民・道民から愛されるスポーツ・イベント会場として活用されます。

安全対策

会場内は選手や大会関係者など、クライアント同士の交錯及び不審者や無関係者の侵入を防ぐため、認証カード等による入場監理を行います。また、会場はセキュリティエリアにより管理され、最先端の生体認証システムを活用した入場監理システム、会場全体の監視システムを導入し、十分な安全対策を講じます。

交通輸送

選手村	15.2 km / 22 min
新千歳空港	53.2 km / 53 min
JR札幌駅	7.7 km / 17 min



アイスホッケー（女子）

かつてのオリンピック会場を刷新 日本のアイスホッケーの拠点となる施設が競技会場に

月寒体育館



月寒体育館は、1972年札幌大会の際、アイスホッケーの会場として利用されました。現在は、通年型スケートリンクとなり、市民にも利用されています。

2026年札幌大会時には、6,000席を有する施設として建替えて再びアイスホッケー会場（女子）として活用し、大会後は、アジアにおけるアイスホッケーの拠点として活用されます。

競技会場	月寒体育館
所在地	札幌市豊平区月寒東1条8丁目
整備手法	建替
敷地面積	50,712㎡
競技施設	アリーナ規模：30m×60m
観客席数	固定席：6,000席

アイスホッケー（女子）

建設コンセプト

月寒体育館は1972年札幌大会でアイスホッケーの会場として整備され、その後もJOC認定競技別強化センターとなる等、アイスホッケーの拠点として親しまれてきました。その記憶を継承しつつ、老朽化した既存施設をIIHF（国際アイスホッケー連盟）の基準に準拠した最新のアイスホッケー場へ建て替えます。

運営機能

可能な限り運営関連諸室等を新施設内に配置します。また、観客のアクセスは主に地下鉄等の公共交通機関の利用を想定し、選手や関係者との交錯を最小限にします。

運営諸室は隣接している競技場等を活用しながら、コンパクトにまとめる計画を行います。

競技関連諸室：3,800㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：4,300㎡／運営用諸室：6,100㎡／その他諸室：1,700㎡

環境

会場の整備に伴う、公園内の既存の樹木・植栽の伐採は極力行わず、1972年大会のレガシーを継承することを目的とした計画とします。

既存施設の解体および新施設の建設時に発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

会場内は選手や大会関係者など、クライアント同士の交錯及び不審者や無関係者の侵入を防ぐため、認証カード等による入場監理を行います。また、会場はセキュリティエリアにより管理され、最先端の生態認証システムを活用した入場監理システム、会場全体の監視システムを導入し、十分な安全対策を講じます。

交通輸送

選手村	2.3 km / 5 min
新千歳空港	45.5 km / 53 min
JR札幌駅	7.5 km / 17 min

- 仮設
- 既存（改修）
- 建替
- ▲ 新設

駐車場

普通車：380台



後利用

月寒体育館は2026年札幌大会後、2度のオリンピックを経験した場所となります。建て替えを経て最新の基準に準拠した新たなアイスホッケー場に生まれ変わり、アイスホッケーの拠点としてよりいっそう市民・道民に愛される施設となります。



ボブスレー／スケルトン／リュージュ

1972年札幌オリンピックの施設跡地を利用
その記憶を継承した新たなアジアの競技拠点となる会場に

サッポロティネ



札幌都心からのアクセスが良いサッポロティネに、設備やコンディションが世界トップレベルのコースを整備します。

1972年、札幌オリンピックでボブスレー・リュージュ会場として使用され、現在は閉鎖されている会場を再整備し、2026年からは、アジアにおけるボブスレー・スケルトン・リュージュの拠点として、世界に開かれた競技施設に生まれ変わります。

競技会場	サッポロティネ
所在地	札幌市手稲区手稲金山
整備手法	建替
競技施設	コース全長：1,500m、コース長：1,350m
観客席数	固定席：1,000席、立見席：10,000席

ボブスレー／スケルトン／リュージュ

建設コンセプト

1972年の会場を再整備し、世界トップクラスのコースと設備を整備します。冬季の平均気温が0度を下回る気象条件を活かして、人工アイススケートリンクと同等以上の上質な氷のコースを整備し、世界中の「氷の上のグランプリレーサー」を魅了します。

運営機能

札幌五輪から受け継がれてきたコース管理技術により、最高のコースコンディションを提供します。

競技関連諸室：14,000㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：6,200㎡／運営用諸室：6,200㎡／その他諸室：2,500㎡

環境

1972年札幌オリンピックのボブスレーコース跡地を活用するなど会場整備に伴う森林伐採は極力低減します。また、選手・関係者・観客等が安全・安心に、雪山で滞在できることを目指した計画とします。

仮設により発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

最先端の生態認証システムを活用した入場監理システムを導入するとともに、山側からの進入を防ぐために必要な設備や警備員を配置し、エリア帯を24時間体制で広域的に監視する体制を整えます。

交通輸送

選手村	32.2 km / 39 min
新千歳空港	70.2 km / 75 min
JR札幌駅	19.1 km / 29 min

- 仮設
- 既存（改修）
- 建替
- ▲ 新設

駐車場

普通車：356台



後利用

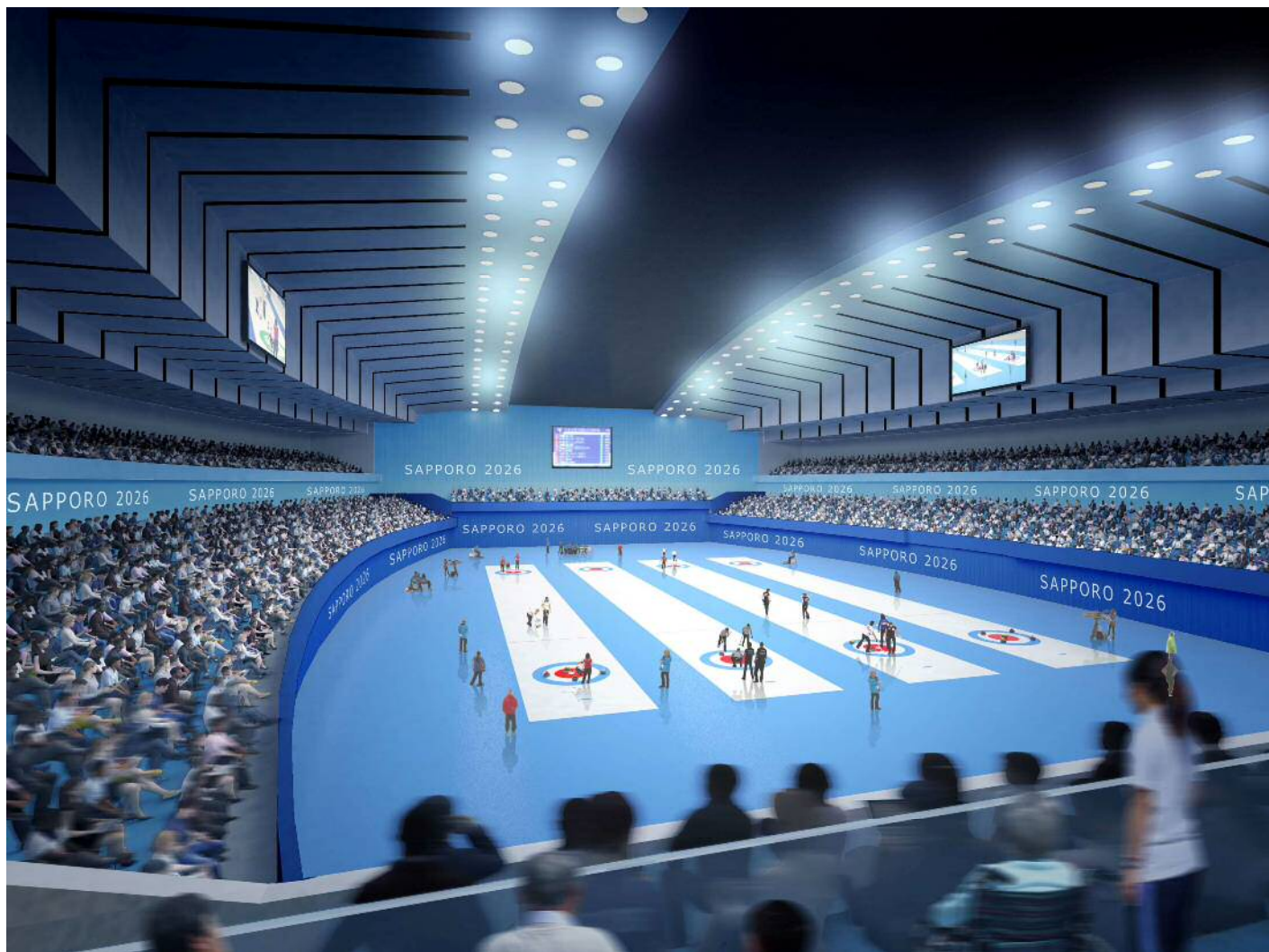
競技会場は世界レベルのコースを活かし、ナショナルトレーニングセンターとして、また、アジアのトレーニング拠点として、競技者を集め、育成します。

また、JR札幌駅から30分というアクセス環境を活かし、市民や観光客が利用できるスキー場と一体となった施設として生まれ変わります。



北海道の誇るスポーツの殿堂を活用したカーリング会場

北海きたえーる



2000年に東北以北最大級の屋内体育館としてオープンした施設で、メインアリーナとサブアリーナのほか、武道場や弓道場、トレーニング室など多様な機能を有しており、北海道の屋内スポーツや武道の中心的施設として利用されています。

また、地下鉄駅に直結した施設であり、高い利便性を誇ります。選手村に比較的近い既存施設の有効活用です。

2026大会期間中は、カーリング会場として約3,000席を有する会場となります。

競技会場	北海きたえーる
所在地	札幌市豊平区豊平5条11丁目
整備手法	仮設
敷地面積	40,000m ²
建築面積	18,919m ²
延床面積	30,000m ²
競技施設	リンクサイズ：30m×60m（シートは5m×45.72mを4面用意）
観客席数	固定席：3,000席

建設コンセプト

これまで、各種の国際大会を開催してきた会場であり、既存施設を利用して、施設建設費を抑制します。メイン・アリーナに仮設のアイスマットをセットし、カーリングに適した氷を作成します。大会開催に配慮された施設であり、選手・関係者・観客のすべてが、安全かつ快適に移動し、利用できる施設です。

運営機能

関係者諸室は、本施設の各室に割り当て、屋外の仮設施設を最小限にします。

札幌の中心市街地にも至近な地下鉄直結の会場であり、観客のアクセスは主に地下鉄の利用を想定します。更に、選手・関係者席や諸室は、観客席のフロアと階を異にしており、スムーズな動線による競技が可能です。

競技関連諸室：900㎡／オリンピックファミリー用諸室：500㎡／メディア用諸室：4,400㎡／運営用諸室：5,600㎡／その他諸室：1,200㎡

環境

隣接する公園と一体となり、緑の景観を形成しており、オリンピックのための樹木伐採や土地の改変は最小限で対応します。

既存施設の改修がある場合には、発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

会場内は選手や大会関係者など、クライアント同士の交錯及び不審者や無関係者の侵入を防ぐため、認証カード等による入場監理を行います。また、会場はセキュリティエリアにより管理され、最先端の生態認証システムを活用した入場監理システム、会場全体の監視システムを導入し、十分な安全対策を講じます。

交通輸送

選手村	5.2 km / 12 min
新千歳空港	48.0 km / 59 min.
JR札幌駅	4.8 km / 11 min

●	仮設
●	既存（改修）
■	建替
▲	新設

駐車場

普通車：326台



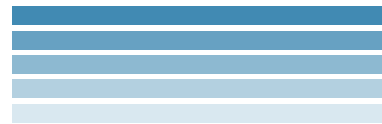
後利用

既存施設である北海道立総合体育センター（北海きたえーる）は、2026年札幌大会の競技会場として再び注目され、これまで以上に、市民・道民から愛されるスポーツ・イベント会場として活用されます。





バイアスロン



多くの大会実績をもつ施設を 自然を感じられる競技会場にリニューアル

西岡バイアスロン競技場



西岡バイアスロン競技場は、1972年札幌大会に向けて新設され、バイアスロンの会場として使用されました。その後もアジアバイアスロン選手権大会やバイアスロン日本選手権大会をはじめ、数多くの大会が開催されている競技場です。

競技会場	西岡バイアスロン競技場
所在地	札幌市豊平区西岡
整備手法	既存改修
競技施設	全長：4,000m
観客席数	固定席：7,000席、立見席：15,000席

建設コンセプト

1965年から始まったバイアスロン競技日本選手権大会の会場として、半世紀以上に渡り培われてきた経験と技術を活かしつつ、現代に合わせたリニューアルを行い、バイアスロンの魅力を観客と世界に感じてもらえる会場となるよう整備します。

運営機能

陸上自衛隊施設を活用することで、ライフル射撃による周辺地域への安全性を確保することができます。また、最高レベルのセキュリティコントロールにより、選手や観客の安全を確保します。

競技関連諸室：6,700㎡／オリンピックファミリー用諸室：600㎡／メディア用諸室：6,900㎡／運営用諸室：6,200㎡／その他諸室：4,000㎡

環境

会場の整備に伴う森林伐採は極力行わず、選手・関係者・観客等が安全・安心に滞在できることを目的とした整備計画とします。

仮設により発生する建設廃棄物のリユース、リサイクルを徹底するなど、環境負荷を最小限に抑えます。

安全対策

最先端の生態認証システムを活用した入場監理システムを導入するとともに、山側からの進入を防ぐために必要な設備や警備員を配置し、エリア帯を24時間体制で広域的に監視する体制を整えます。

交通輸送

選手村	7.7 km /17 min
新千歳空港	48.9 km /68 min
JR札幌駅	13.8 km /31 min

●	仮設
●	既存（改修）
■	建替
▲	新設

駐車場

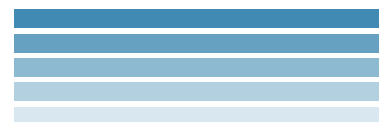
普通車：351台



後利用

バイアスロン競技場としてのほか、陸上自衛隊の教育訓練施設として利用されます。





バリアフリーを徹底し、オリンピック会場の感動を引き継ぐ会場に

競技会場一覧

オリンピック競技大会後、一部の施設はパラリンピック競技会場へ転換します。
オリンピックの感動を引き継いだ、活気あふれる競技会場を計画します。

各競技会場には、最新技術を活用して、様々な障がいに対応できる音声翻訳案内や移動手段をはじめとするバリアフリーを徹底し、誰もが観戦しやすい環境の整備を目指します。

競技	種目	会場
開会式・閉会式		札幌ドーム
アルペン スキー	アルペン	ニセコ
	スノーボード	サッポロテイネスキー場、 札幌国際スキー場、 さっぽろばんけいスキー場のうちいずれか
バイアスロン		西岡バイアスロン競技場
クロスカントリースキー		白旗山競技場
アイススレッジホッケー		月寒体育館
車いすカーリング		北海きたえーる

※ソチパラリンピック2014の開催競技を想定

※バイアスロンとクロスカントリーについては同会場での開催を検討

パラリンピック競技

大会コンセプト

パラリンピックを契機に新たな時代に対応した、すべての人にやさしい豊かな暮らしを創出します。会場や交通機関におけるアクセシビリティの向上を進めるとともに、パラリンピック教育を推進することでノーマライゼーションの理念を広め、心のバリアフリー化を進めます。

選手輸送

車椅子のまま乗車できる、人にも環境にも優しい乗り物で選手の移動をサポートします。

大会期間中は、高速道路や一般道路にパラリンピック専用レーンを設け、混雑なく、また、降雪時にも快適に走行できる道路空間を用意します。

安全対策

最先端の生態認証システムを活用した入場監視システムを導入するとともに、会場全体の監視システムを導入し、十分な安全対策を講じます。

また、観客動線と車両動線を分離し、車椅子利用者にも十分配慮したアクセスを確保する事で、緊急時のスムーズな対応や雑踏事故を防ぐ計画とします。

観客輸送

観客の中にも、多くの障がい者や高齢者等が含まれます。車椅子で乗ることが可能な車両の準備、随所でのボランティアスタッフによる介助等、競技開始に誰もが間に合うよう、わかりやすく利用しやすい観客輸送を行います。

ホスピタリティ

音声翻訳案内など最新機器の利用により、障がい者や高齢者でも安心して参加・観戦できる環境を整える事で、誰もが大会の熱狂に触れることができ、選手を盛り上げられるような工夫を施します。

それらに加え、ボランティア等による人的配慮も充実させます。

バリアフリー化

計画段階からの国際パラリンピック委員会（IPC）の基準を踏まえたアクセシブルな会場整備を行うとともに、体育館等のバリアフリー化を推進します。

また、小・中学校等におけるインクルーシブ教育システムの構築や、パラリンピック競技の体験を通じて、市民、道民におけるパラリンピックへの理解、選手を応援する気持ちの醸成を図ります。



オリンピック・パラリンピック選手村

豊かな周辺環境を活かした、快適かつ環境に配慮した選手村



建設コンセプト

豊かな森に囲まれた中で、
選手が安全・安心・快適に滞在できる居住空間

開閉会式会場となる札幌ドームに隣接した選手村では、周囲を緑に囲まれた立地を活かし、環境に最大限に配慮した施設整備を行います。

選手に十分な広さの居住空間を確保するとともに、レジャー・医療等各種施設や最先端技術と日本のおもてなしの心を活かしたサービスにより、快適で利便性の高い滞在生活を提供します。また、交流スペースを多数配置し、選手相互の交流を促進します。

すべての人が快適に利用できるようユニバーサルデザインに基づいてすべての施設を整備し、そのままパラリンピック選手村としても使用します。

最新のセキュリティ技術や医療設備等により、警備、医療、災害に万全の対策をとり、選手村の安全・安心を徹底します。

選手村の整備においては、PPPやPFI等の民間企業と連携した先駆的なまちづくりのモデルとします。

整備地区	札幌ドーム隣接地
所在地	札幌市豊平区羊が丘
整備手法	新設
敷地面積	約285,000㎡ (うち森林以外170,000㎡)
延床面積	約150,000㎡ (宿泊棟延床面積 約105,000㎡)
収容人員	4,500人 (1ベッドあたりの宿泊棟床面積 約23㎡)

※整備地区は、市街化調整区域のため、都市計画上の整理が必要になります。

今後、札幌ドーム周辺や真駒内地区等、既成市街地における整備についても検討を行います。

オリンピック・パラリンピック選手村

運営機能

I 宿泊ゾーン

選手一人ひとりに、快適な日常生活を提供する宿泊棟

選手には個室を用意し、最適なコンディションづくりを支援します。各個室は防音性と居住性を確保し、インターネット環境を整備して、大会の情報や映像を提供する情報通信サービスや母国のテレビ番組、映画、ゲームなどのアミューズメントをネットワークを通じて提供します。また、選手同士が交流できるように、宿泊棟には居住者センター（ラウンジ等）を設けます。

使いやすさに配慮した広いスペースの各国選手団事務所

各国選手団事務所は、打ち合わせや来客の対応など様々な用途に対応できるよう十分な広さを確保し、選手団の宿泊部屋の直近に設置します。また、住宅棟には機材収納スペースを選手団ごとに設けます。

充実したトレーニング施設、多彩なレストラン、最新のレジャー施設

宿泊ゾーンには、屋内トレーニング場、多目的運動場等のトレーニング施設を設置します。またスポーツドクターも常駐する総合診療所では、充実した医療体制で選手をサポートします。

飲食に関しては、各国の家庭料理から一流料理まで選手の要望に応えた多彩な料理を提供し、選手の体調に直結する「食」に細心の配慮を払います。特に、日本食については専門レストランを設置し、日本文化を感じることができる空間を提供します。

また、映画鑑賞スペース、クラブやゲームセンターなどからなる最新のレジャー施設や、選手がリラックスして快適に過ごせる住空間を提供します。さらに、競技に向けて精神の集中を高めるため、礼拝や瞑想の空間を設けます。

ユニバーサルデザイン都市の建設

すべての人が快適に生活できる空間を提供するために、ユニバーサルデザインを徹底します。パラリンピック開催時には、施設の改修なしにパラリンピック選手村として活用します。

II オリンピックビレッジプラザ

外国製品を多数取り揃えた24時間営業のコンビニエンスストアや各種専門店等、バラエティに富んだサービス・商品を提供します。

選手や役員等に必要な物資を取り扱うロジスティックセンターは利便性と安全性を考慮し、万全のセキュリティチェックを備えた入出庫ゲートを整備し、隣接してシャトルバスターミナル施設も整備します。

交通輸送

9割の会場に30分以内に到着

選手村から開閉会式場、市内の各競技場へは、シャトルバスでオリンピック専用レーンを利用し、9割の会場に30分以内に到着します。

また、村内の交通システムは、冬季のバリアフリー等に配慮した円滑な移動を実現するとともに、環境負荷の少ない車両を運行し、宿泊施設、トレーニング・レクリエーション施設、ダイニング、オリンピックビレッジプラザ、バスターミナルを循環します。

オリンピック・パラリンピック選手村

環境

豊かな自然に囲まれた生活環境の創出

動植物に配慮して土地の改変を最小限とし、可能な限り既存の樹木を残すほか、景観に配慮した、誰もが自然に触れ合える選手村を整備します。

また、環境への負荷を最小限にするため、施設のエネルギーは水素エネルギー、太陽光発電、バイオマス等の再生可能エネルギーにより供給し、廃棄物、再生水等資源の循環利用を進めます。

安全対策

最新のシステムとネットワークで、万全のセキュリティ対策を実現

安全管理のために、部外者の選手村への出入りはオリンピックビレッジプラザのみとし、生体認証システムなど最新のセキュリティシステムで厳重なチェックとスムーズな入村手続を両立させます。宿泊棟においても、各棟各戸の入り口に加え、エレベーターのセキュリティシステムを導入します。

村内に現地警備本部を設置するほか、警察官などの警備要員を配置する警備詰所や、ポンプ車、救急車を配備した消防出張所を設置し、24時間集中監視を行います。

後利用計画

オリンピック施設を活用した、スポーツ施設等の整備

大会終了後に整備する新しい街は、大会時に使用した宿泊施設や体育施設等の一部の施設を有効活用し、宿泊機能や屋内体育施設による障がい者スポーツのトレーニング施設も含めたスポーツパークを検討します。

豊かな自然に囲まれた環境で、施設利用者が快適かつ健康的に過ごすことのできる環境の整備を検討します。

※後利用計画は現時点で想定している計画案であり、今後、変更となる可能性があります。

ホスピタリティ

すべての人に向けたきめ細やかな配慮で、ホスピタリティを提供

多言語表記・ピクトグラムによる案内表示を行い、さらに多言語対応のコンシェルジュも配置します。

また、車いすなどに配慮した段差の解消、視覚障がい者誘導用床材、音声誘導装置など障がい者を念頭に置いた施設整備も行います。

なお、大会期間中にアスリートが家族と面会したり、市民との交流が可能となるミックスゾーンの設置等、選手がリラックスできる環境を整えます。

スピードスケート選手村(帯広)

スピードスケート競技会場が帯広の場合は、競技会場近くにスピードスケート選手村を整備します。

ホテル等の宿泊施設を選手村として利用することを検討します。

アルペン選手村(ニセコ)

スキージャンプ競技会場は、市外の施設を利用するため、競技会場近くにアルペン選手村を整備します。

ホテル等の宿泊施設を選手村として利用することを検討します。



安定的な気候で、アスリートと観客に最高のコンディションを提供

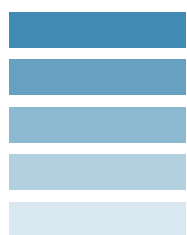
札幌市における2006年から2015年まで（過去10年間）の大会開催期間における気象データは下記の通りです。

オリンピック期間

	平均気温 (℃)	最高気温の 平均(℃)	最低気温の 平均(℃)	平均風速 (m/s)	平均降雪量 (cm)	雨天率 (%)	好天日出現率 (%)
2/6	-3.1	0.1	-6.9	3.6	4.8	20%	80%
2/7	-2.8	0.1	-6.2	3.8	7.8	30%	70%
2/8	-3.4	-0.9	-6.7	3.4	3.8	30%	70%
2/9	-3.1	-0.1	-6.6	3.0	1.7	0%	100%
2/10	-3.8	-0.7	-6.8	2.7	5.0	10%	90%
2/11	-3.9	-0.8	-7.3	3.1	2.5	20%	80%
2/12	-4.7	-1.8	-8.0	3.8	5.7	10%	90%
2/13	-3.6	-0.9	-6.9	3.5	5.6	50%	50%
2/14	-2.2	1.1	-5.9	4.0	3.8	30%	70%
2/15	-2.6	0.5	-6.1	3.7	3.3	40%	60%
2/16	-3.2	-0.9	-5.3	3.8	8.6	50%	50%
2/17	-3.4	0.0	-6.7	3.9	4.5	50%	50%
2/18	-3.5	-0.9	-7.1	3.6	3.1	20%	80%
2/19	-3.0	0.0	-6.4	3.1	4.5	10%	90%
2/20	-2.0	1.3	-6.1	3.8	2.4	10%	90%
2/21	-2.6	1.0	-6.0	4.1	7.0	40%	60%
2/22	-1.4	2.2	-5.7	3.7	1.3	0%	100%

パラリンピック期間

	平均気温 (℃)	最高気温の 平均(℃)	最低気温の 平均(℃)	平均風速 (m/s)	平均降雪量 (cm)	雨天率 (%)	好天日出現率 (%)
3/6	0.6	4.4	-3.2	4.4	1.9	30%	70%
3/7	-0.7	2.6	-4.4	3.6	3.6	10%	90%
3/8	-0.9	2.7	-4.3	3.1	2.7	10%	90%
3/9	-1.0	2.5	-4.7	3.3	4.9	40%	60%
3/10	-0.4	3.1	-4.2	3.8	4.7	40%	60%
3/11	-0.6	2.6	-3.4	4.2	3.2	20%	80%
3/12	-0.4	2.5	-4.2	3.5	1.4	10%	90%
3/13	0.0	3.3	-3.0	4.5	4.7	40%	60%
3/14	0.1	3.4	-2.9	4.5	3.5	20%	80%
3/15	1.0	4.6	-2.2	3.4	2.4	20%	80%



運營編

既存交通網を活用し、誰にとっても快適な移動環境を提供

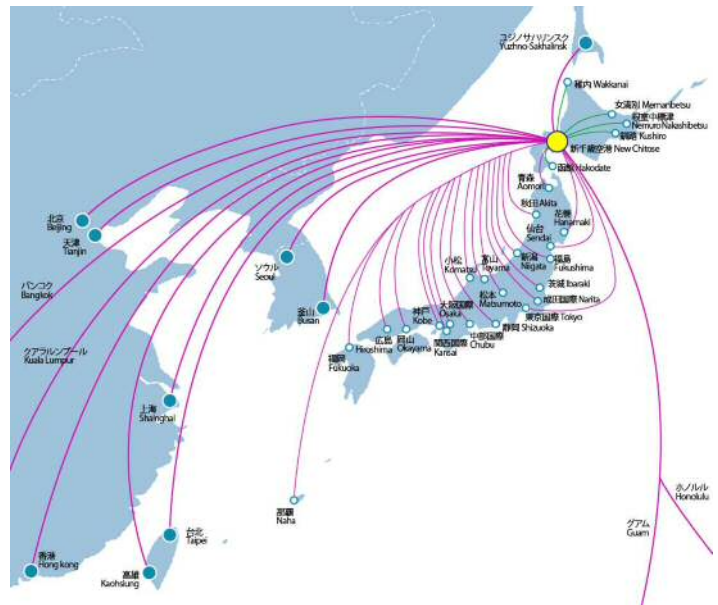
国際アクセス

新千歳空港は、3,000mの滑走路を2本有し、年間着陸数約7万回、年間乗降客数約2千万人を誇る日本の基幹空港です。

国際線は、ソウル、上海、香港等、東アジアの拠点空港との間で13路線を有し、平成26年の国際線年間乗降客数は、国内第6位となっています。

また、国内線では、平成26年の年間乗降客数が、東京国際空港に次ぐ2位となっており、東京国際空港、成田国際空港、関西国際空港、中部国際空港などの国際拠点空港との間を結ぶ路線により、全国各地からアクセス可能な環境が整備されています。

新千歳空港は、24時間運用空港であり、今後、駐機場の拡大やターミナルビルの機能向上など国際線ターミナル地域の再編も予定されており、大会開催時には、世界から来訪する選手・関係者・観客などを安全、円滑、快適に受け入れることが可能です。



国際空港と選手村、各宿泊施設等へのアクセス

新千歳空港と札幌市内は、高速道路で結ばれています。

新千歳空港から選手村までの距離は約40kmであり、新千歳空港、選手村それぞれに近接する高速道路1Cを利用することにより、約50分で移動することができます。



大会期間中の輸送手段

VIPの輸送手段

選手等大会関係者の移動は専用シャトルバスを使用し、国際オリンピック委員会（IOC）役員等のVIPの移動には専用自動車を使用します。

開閉会式の輸送手段

開閉会式においては、専用シャトルバスの増便等により輸送力を強化するとともに、札幌ドーム周辺道路への一般車両の乗り入れ規制により、安全、円滑な移動環境を提供します。

日常の輸送手段

札幌市内の主要幹線道路に、オリンピック専用レーン・優先レーンを設けるとともに、降雪による影響を回避するために柔軟かつ効率的な除雪実施体制を配備し、選手村と主な競技会場を出来るだけ短時間で移動できる道路環境を確保します。

また、大会関係車両の移動状況やリアルタイムの交通情報を把握し、交通事故等、不測の事態においても、遅れなく競技会場に到着できるよう適切に誘導できる体制を配備します。



国内アクセス

北海道新幹線（新青森～新函館北斗間）が開業し、本州からのアクセスが向上しています。また、近隣に小樽港、苫小牧港があり、大型フェリーによる輸送も可能です。飛行機に加えたマルチネットワークで輸送力を増強します。



写真提供：北海道旅客鉄道株式会社

観客輸送システム/交通規制/駐車場など

観客輸送システム

札幌市には、市民200万人の日常生活を支える鉄道、地下鉄、バスなどの公共交通網が整備されています。オリンピック・パラリンピックを契機として、世界から誰もがアクセスしやすく快適に移動できる都市となるため、これら既存の公共交通網の充実や多言語による情報提供を図るとともに、大会開催中には、競技会場と市内交通拠点を結ぶシャトルバスの運行により、确实、迅速に観客を輸送します。

また、冬期路面におけるバス乗降時の安全性確保やパラリンピック関係者の快適性確保に向け、ノンステップバスの導入やバス車内の車椅子スペースの確保、ユニバーサルタクシーの導入等、バリアフリー・アクセス性の向上を図ります。

交通規制

各競技会場周辺への一般車両の乗り入れ禁止や、オリンピック専用レーン・優先レーンの設置により、确实な移動ルートを確保します。

混雑緩和

開会式など多くの観客の来場が予想される会場では、サブイベントの開催等により、観客の滞留時間に時間差をつけ、来場・退場時の観客の分散を図ります。

駐車場

各競技会場には、選手等大会関係者のための専用駐車場を優先的に確保します。観客に対しては、自家用車での来場を制限するとともに、シャトルバス、ユニバーサルタクシー等の乗降スペースを観客席への移動しやすさに配慮した位置に確保します。

交通情報案内システム

VICS（道路交通情報通信システム）による的確な状況把握に基づき、輸送時間の短縮に努めるとともに、确实な輸送体制を確保します。

また、デジタルサイネージを活用した情報発信により、競技会場周辺の交通規制や地下鉄、バス等の運行情報などを提供し、わかりやすい案内を行います。

都心アクセスの強化

周辺の空港等から都心へのアクセスを強化するため、都心部と高速道路を結ぶ創成川通の機能強化に向けた検討を進めます。

ニセコ・帯広での競技開催

競技開催地と札幌市、新千歳空港との間には、選手等大会関係者の速やかな輸送に寄与する高速道路や国道が整備されています。さらには、帯広にはスピードスケート会場から約25kmの距離にとち帯広空港があり、また、ニセコエリアについては、高速道路の延伸も事業化されており、大会時には、快適な移動が可能となります。

これら都市間の輸送や、競技開催地における選手宿泊施設と競技会場との間の輸送について、関係市町村や道路管理者、交通管理者と連携し、札幌市内と同じ水準の安全、円滑、确实な移動環境を確保します。



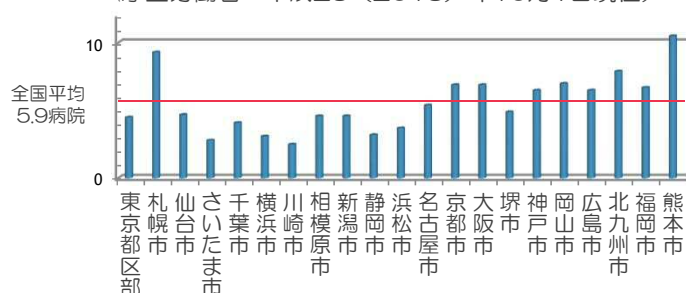
高度な医療体制と救急医療への対応

札幌市の医療機能

高度に集積した医療体制

人口10万人あたりの病院数は、政令指定都市の中で最も高い水準となっています。医師数も高い水準にあり、札幌市は国内でも有数の高度に医療機能が集積された都市です。

人口10万人あたりの一般病院数
(厚生労働省 平成25(2013)年10月1日現在)



病院・医療機関	札幌市
一般病院数	181
特定機能病院数	2
先進医療A実施医療機関数	20
先進医療B実施医療機関数	13
大学病院数	3

- ・一般病院：病院のうち精神科病院を除く病院
- ・特定機能病院：高度の医療を提供し、医療技術の開発及び評価、研修を行わせる能力を有し、厚生労働省令で定める診療科名、入院施設を有するなどの条件を満たす病院
- ・先進医療：医療技術ごとに一定の施設基準を設定し、施設基準に該当する保険医療機関は届出により保険診療との併用ができる
- ・先進医療A：おもに未承認の医薬品もしくは医療機器の使用または医薬品もしくは医療機器の適用外使用を伴わない医療技術
- ・先進医療B：おもに未承認の医薬品もしくは医療機器の使用または医薬品もしくは医療機器の適用外使用を伴う医療技術

救急医療

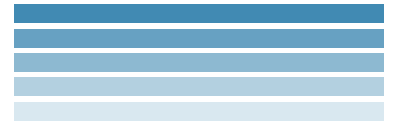
救急医療体制

札幌市の救急医療体制は、軽症患者に対応する第一次救急医療、入院を要する重症患者に対応する第二次救急医療、重篤患者に対応する第三次救急医療から成り立っており、医療機関が当番制で休日や夜間などの対応にあたっています。

心筋梗塞、脳卒中、交通事故等による多発外傷などの重篤救急患者の救命医療を担う救命救急センター（24時間365日体制の医療機関）を市内4ヶ所に設置しています。

救命救急センターのうち1施設は、特に高度な診療機能を有し、広範囲の熱傷、急性中毒等の特殊疾病患者に対する救命医療を行う高度救命救急センターとして機能しています。また、札幌市夜間急病センターが夜間の急病者の診療を、札幌歯科医師会口腔医療センターが夜間の歯科救急患者の診療を行っています。

さらに急に具合が悪くなった時などに、専門の相談員が対応方法や受診先などのアドバイスをする「救急安心センターさっぽろ」を設置し、電話相談を受け付けています。



国際対応

言語対応等

札幌市では、海外からの来訪者にも安心して医療サービスを受けられる体制に向けた取り組みを進めています。

救急安心センターさっぽろでは、24時間体制で海外からの来訪者も円滑に医療機関を受診できるよう、多言語対応の導入を目指してまいります。

また、公益財団法人札幌国際プラザホームページでは、英語、中国語、韓国語対応の「多国籍市民のための札幌生活情報」内に緊急時の受付医療機関、相談窓口を掲載しています。

他にも、北海道救急医療・広域災害情報システムでは、英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語に対応した病院等の紹介を行っています。

札幌市災害時基幹病院一覧

	基幹病院名称	所在地 (区)	各種指定状況				
			救急告示	二次救急	三次救急	道災害 拠点病院	ドクター ヘリ受入
1	札幌医科大学 附属病院	中央	○		○	○	○
2	市立札幌病院	中央	○	△	○	○	○
3	J A北海道厚生連 札幌厚生病院	中央	○	○			
4	N T T東日本 札幌病院	中央	○	○			
5	北海道大学病院	北	○		○	○	
6	勤医協中央病院	東	○	○			
7	医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院	東	○	○			
8	独立行政法人 国立病院機構 北海道がんセンター	白石	○				
9	JCHO札幌北辰病院	厚別	○	○			
10	JCHO北海道病院	豊平	○	○			
11	札幌逡信病院	南					
12	独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター	西	○		○	○	○
13	医療法人深仁会 手稲深仁会病院	手稲	○	○	○	○	○

平成26年4月1日現在（札幌市保健所資料）

二次救急においては、けが災害の外科系も担っている医療機関を○とし、けが災害の外科系以外の診療系のみ場合は△と表記。

メディカルサービス

ドーピングコントロール

豊富な国際経験

FISワールドカップ、ノルディックスキー世界選手権大会をはじめ、FIFAワールドカップ、冬季アジア大会他、様々な国際スポーツ大会の開催経験を活かし、万全の準備態勢で臨みます。

また東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のドーピングコントロール部門とも連動・協力し、より高度な経験を蓄積していきます。



WADA (World Anti-Doping Agency)
世界アンチ・ドーピング機構最新基準への対応
JADA (Japan Anti-Doping Agency)
日本アンチ・ドーピング機構との連携

世界的なアンチドーピング活動の高まりを踏まえ、常に最新のWADA国際基準への対応を準備し、国内ではJADAと連携し、WADA基準の遵守に努めます。



開閉会式会場、選手村の近傍で整備される新規施設



メインメディアセンター（MMC）は、開閉会式会場近くに整備します。大空間の施設として整備し、多くのメディア関係者が情報を共有できるようにするとともに、多様な後利用が可能な施設として計画します。

放送関係者とプレス関係者双方が取材可能な共用空間を整備し、快適な取材環境を提供します。

メディア関係者の宿泊については、市内の既存宿泊施設を利用します。

メインメディアセンターにアクセスしやすい位置にメディア村を整備し、宿泊施設の不足に対応します。

報道関係者の1割以上の約1,000名分の宿泊室をメディア村で整備します。

整備地区	北海道立産業共進会場跡地
所在地	札幌市豊平区月寒東3条11丁目
整備手法	新設
敷地面積	約78,000㎡
延床面積	約69,000㎡(MMC)
整備施設	放送センター（IBC）、プレスセンター（MPC）をメインメディアセンター施設内に整備（記者室、掲示板、記者会見場、会議室、軽食コーナー、売店等）、他宿泊施設
利用者数	10,000名、メディア村では約1,000ベッド整備

メディア関係

建設コンセプト(メディアセンター)

メインメディアセンターでは、全ての報道関係者が快適に情報を発信できる環境を提供します。24時間世界に発信可能な施設です。大会結果や競技情報を伝えるために、最新の情報技術を活用した情報センターとします。周辺の環境や景観に配慮した中層の施設とします。

運営機能

IBCゾーン：映像編集などを伴うため、放送局ごとに区画したエリアを利用できる施設計画とします。IBC内からの放送も想定し、各所で電源、情報端末、テレビ放送の背景となるバックボードやサインなど各種ルックへの対応を行います。

MPCゾーン：比較的少人数での利用が多いため、専用の席を確保できるようにするだけでなく共用の取材机なども用意します。各記者が電源や情報端末を利用できるように計画します。

共用ゾーン：エントランス、記者会見会場や軽食サービス、売店、荷物の配送センターなどを共用ゾーンに整備します。共用施設は、IBCとMPCの中間に配置し、バスやタクシーの乗降も共用ゾーン部分に集約し、効率的な動線計画とします。

環境

既存の施設跡地への整備を基本として、地形の改変の少ない計画とします。周辺の環境や景観に配慮した中層の施設とします。環境負荷の少ない車両により報道関係者の移動をサポートします。

安全対策

会場内はクライアント同士の交錯及び不審者や無関係者の侵入を防ぐため、認証カード等による入場管理を行います。また、会場はセキュリティエリアにより管理され、最先端の生体認証システムを活用した入場監視システムを導入し、十分な安全対策を講じます。

交通輸送

選手村	2.4 km / 5 min
新千歳空港	42.0 km / 52 min
JR札幌駅	8.8 km / 20 min

駐車場

取材関係車両の駐車場は、屋外空間を利用し、750台を確保します。

宿泊施設(メディア村)

メディアセンターの近接地にメディア村を設けます。宿泊施設は、24時間対応のフロント機能を有する3つ星レベル以上の施設を約1,000室整備します。全室、ベッド、トイレ、バスルーム（またはシャワーブース）、IT設備を設けます。

機材や荷物の受取りや発送を可能にします。売店、食堂も24時間対応にします。

後利用

2026年大会後は大型の施設であることを活かし、さまざまなイベントの開催が可能な展示場等とともに、一部を商業施設にします。

宿泊施設の後利用は、宿泊や住宅などを検討します。※メディアセンターは風致地区にあるため、都市計画上の整理が必要になります。

後利用計画は現時点で想定している計画案であり、今後、変更となる可能性があります。

サテライト・メディアセンター

市外にある競技会場の近傍に、現地のメディアセンターを整備します。地元の公共施設を活用し、不足する機能がある場合は、仮設施設で対応します。

宿泊については、競技場近くの既存施設利用を基本とします。



官民一体での危機管理体制

基本計画

- 警察、消防、自衛隊、民間警備業者と連携し、オリンピック・パラリンピック警備基本計画を策定し、安全な大会運営を行います。
- 開閉会式や選手村のある札幌ドーム周辺を中心に、各会場の規模に応じて厳重な警備体制を構築します。
- 東京オリンピック・パラリンピックの計画や実施結果を活用するとともに、最新のIT技術を導入し、テロや事故、災害を未然に防ぎます。

治安方法

大会関係者（選手、役員、メディア関係者等）の安全対策

不審者との接触を防ぐとともに、関係者の負担を極力少なくするため、生体認証システムの活用等、最新のIT技術を活用したセキュリティシステムを導入します。

国賓等の要人については、スムーズかつ安全な移動ができるよう、他の関係者と異なるルートを設定する等、特別な警備体制を整えます。

観客の安全対策

会場への移動や入退場時において、混雑や事故が生じないように、ビッグデータやクラウドサービスと連動したデジタルサイネージの活用等、観客の動線を確認するとともに、必要に応じて警備員を配置し、適切な誘導を行います。

また、多くの会場で警備員が必要となることに備えるため、比較的安全性の高い場所では、市民や警備経験者等によるセキュリティボランティアの活用等も検討します。

テロ対策

国内関係機関や国際治安情報機関と連携し、空港での出入国管理や警備強化等により、国際的テロ組織の活動を未然に防ぎます。

競技会場をはじめとする各施設においては、最先端技術の活用に加え、所持品・手荷物検査の徹底等により、不審者の侵入を防ぎ、安全な競技実施や観戦を保障します。

万一、災害が発生した場合は、大規模災害やNBC災害等の特殊災害に対応する札幌市消防局の特別高度救助隊（スーパー・レスキュー・サッポロ）をはじめとした専門部隊等が迅速かつ確実に対応し、被害を最小限に抑えます。



＜テロ現場進入前の救助命令＞



＜汚染被害者を救命するための迅速な除染活動＞

危機管理

危機に対する備え

大事故、自然災害、NBC災害、新型インフルエンザ等の新興感染症等に備えるため、国の機関や警察、消防機関、自衛隊等と連携し、大会開催までの期間に自治体も含めた大規模訓練を実施し、万が一の事態に備える体制を整えます。

事故や災害に対応するため最新の車両や機材を準備するとともに、各機関の情報共有や協力体制を明らかにする危機管理マニュアルを整備する等、万全の体制で臨みます。

関係機関と協力して、大会会場施設をはじめ駅や空港、さらには宿泊施設、大規模商業施設等における防火安全対策を強化するなど、火災予防の更なる推進を図り、札幌へ訪れる方々の安全・安心を確保します。

北海道警察との連携

北海道警察は全警察職員数11,834名（平成27年4月1日現在）を擁し、2008年開催の北海道洞爺湖主要国首脳会議（サミット）等、数多くの国際会議、イベントでの警備・警護の実績を有します。

管内の実態に即した大規模災害等への危機管理対策の強化、大規模災害等発生時における迅速・的確な初動措置、そして社会情勢に応じた警備諸対策の推進によるテロ等の未然防止、さらにサイバー空間の安全、秩序を維持するためのサイバー犯罪の取締りについても、活動の重点として推進計画を策定しています。

国際テロやサイバー攻撃事案など多様化する脅威に対処するため、北海道警察は外国公館等の重要施設の警戒警備、空港・港湾における水際対策などの各種対策を強化するとともに、新たに北海道、市町村、集客施設、公共交通機関、通信事業者等をメンバーとした「テロ対策北海道パートナーシップ推進会議」を発足させるなど、官民一体となったテロの未然防止対策を図っています。

札幌市の対応

広範囲にわたる「札幌市地域防災計画」で自然災害に備える「地震災害対策編」「風水害対策編」「雪害対策編」とともに「事故災害対策編」を策定しています。

危険物の漏洩、爆発、炎上等の事故が発生した場合又はそのおそれがある場合に、迅速かつ的確な対応を行うための防災関係機関等の体制と業務を定めています。

計画では、市民や事業所の役割、また、北海道、北海道警察、自衛隊などの防災関係機関や、電気・ガス・電話などのライフライン企業、さらに他の自治体との連携や協力による防災体制の確立を行っていきます。



＜平成27年北海道警察視閲式＞



＜北海道警察冬季災害警備訓練＞

環境負荷の少ないエネルギーをより効率的に利用した大会開催

札幌は、人口200万人を擁する大都市でありながら、豊かな自然と共存している環境都市です。2008年には「環境首都・札幌」を宣言したところであり、現在もその実現に向けて、次世代エネルギー導入補助制度や次世代自動車購入等補助制度をはじめとした、環境保全に係る様々な取組を実施しています。

オリンピック・パラリンピックを契機として、持続可能な「環境首都・札幌」を目指し、様々な先進的な取組を世界に発信します。

「環境首都・札幌」

「環境首都・札幌」宣言は、地球環境を守るために目指すべき市民像及び都市像を示した「さっぽろ地球環境憲章」と、市民が取り組むべき具体的な行動を示した「地球を守るためのプロジェクト・札幌行動」から構成されており、札幌市の環境保全に係る取組の指針となっています。

「環境首都・札幌」の取組

「札幌市エネルギービジョン」の策定（2014年10月）

「低炭素社会と脱原発依存社会を目指した持続可能なまちづくりを進め、世界に誇れる環境首都を実現する」という方針を反映するとともに、札幌市のエネルギー政策の方向性を示しています。

「札幌市温暖化対策推進計画」の策定（2015年3月）

持続可能な低炭素社会の実現に向けて具体的な温暖化対策を推進するための計画を提示しています。

次世代エネルギー導入補助事業

地球温暖化対策を促進するために、札幌市がエネルギー事業者と連携して、新エネルギー機器や省エネルギー機器を導入しようとする市民に対して機器導入費用の一部を補助する札幌・エネルギーecoプロジェクトを実施しています。

市民と連携した省エネの取組の推進

ムダなく、賢く、省エネ・節電を楽しむ暮らし方である「さっぽろスマートライフ」が定着した街を目指して、「Let's スマート！」を合言葉に、市民参加のイベントや省エネ・節電の定着に向けた様々な取組を行う「さっぽろスマートシティプロジェクト」を通じ、家庭におけるエネルギー使用量の削減を進めています。

「生物多様性さっぽろビジョン」の策定（2013年3月）

「北の生き物と人が輝くまち さっぽろ」の理念のもと、体系的・総合的な施策を進め、市民やNPO、事業者などのあらゆる主体とともに、生物多様性の保全に取り組んでいます。

次世代を担う子どもたちへの環境教育

環境の保全・創造に向けた意識を持ち、自ら考え行動する人を育てるため、様々な環境教育を行っています。市内の児童・生徒たちは、家庭のエコリーダーとして身近なエコ行動の実践に約12万6千人（全体の約94%）が取り組んでいるほか、環境コンテストへの参加など、環境保全活動に取り組んでいます。

また、学校教育の中でも「環境」を重点テーマの一つに位置付け、農業体験学習などを実施しています。

施設の「ネット・ゼロ・エネルギー」化等、さらなる環境首都として持続可能な社会に向けた先進的な取組を提示

再生可能エネルギー由来の水素を使用した燃料電池の導入

選手村や競技施設への暖房・給湯・電力供給には、北海道に豊富に賦存する再生可能エネルギーを由来とする水素を使用した燃料電池を導入し、環境への負荷を最大限低減するとともに、道産木材等、持続可能な地産地消のエネルギー利用を目指します。

太陽光パネルの発電による電光掲示板の表示

直接光と雪面反射光を利用した両面型太陽光パネル等、新たな技術を含め、積雪寒冷地の特性を活かした太陽光発電と蓄電池を組み合わせ、大会に使用される電光掲示板へ電力を供給します。

発電効率の高い太陽光パネルと技術革新が進む蓄電池の導入により、日没後の競技にも利用が可能です。

次世代自動車の導入

大会運営車両については、燃料電池バスや燃料電池自動車（FCV）、電気自動車等の次世代自動車を導入することや、燃料となる水素や電力は、可能な限り再生可能エネルギー由来とする等、CO2排出抑制に努めます。

4つのRによるゼロエミッションな大会

大会運営にあたっては、4つのR（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の取組を積極的に進め、可能な限り廃棄物を抑制したゼロエミッションな大会を目指します。

環境首都にふさわしい大会運営

屋外競技場や競技施設の維持管理においても市有施設で培った札幌版省エネ技術の活用による省エネルギーを徹底するなど、環境負荷の少ない大会を目指します。

また、冬季大会の特性を考慮するとともに、自然豊かな札幌の地域特性を踏まえ、生物多様性保全に十分に配慮した環境影響評価を行います。



実績に基づく宿泊ニーズへの対応とおもてなし

オリンピックファミリーの宿泊施設

IOC総会会場や競技会場へのスムーズな移動が可能な札幌市内中心部のホテルをIOC本部ホテルとして指定し、本部役員やVIP専用を提供します。

札幌市内には26,000室の収容能力がありますが、そのうち13,000室は都心部にあり、オリンピックファミリーに対しても、良質なホテルを低廉な価格で提供します。

宿泊施設においては多言語対応を行い、大会情報の提供、日本文化の紹介など、多様なニーズに応える充実したおもてなしを行います。

なお、IOC総会会場等も想定し、国際会議場・展示場を備えた新たなMICE施設の整備に向けた検討を進めています。



観客の宿泊施設



オリンピックの観客数想定は延べ24万人で、1日あたり約10,000室の宿泊室数が必要と見込まれます。

北海道・札幌の宿泊施設には、国内外の賓客を受け入れてきた数多くの実績があります。

札幌市内近郊の定山溪の温泉旅館は約2,000室を備え、日本の伝統的な宿泊施設としておもてなしを行います。

札幌50 km圏内には約32,000室の宿泊室数があり、アルペン会場として想定している二セコ・倶知安周辺の約6,000室、スピードスケートの会場候補地である帯広地区の約8,000室と合わせ、約46,000室の宿泊室数となります。

札幌都心部やリゾート地として海外でも知られる二セコ・倶知安地区では、今後もホテルの開業が計画されています。

さらに北海道内全体では約110,000室の宿泊施設があり、様々なグレードを備えて観客及び大会関係者の宿泊に対応します。

大会開催期間中には料金高騰の抑制に努め、ホテルの機能向上に対する支援、民間開発の促進による宿泊施設の拡充を目指します。

宿泊施設数

オリンピック開催時に必要と見込まれる室数 (1日あたり推計)	
対 象	室数
オリンピック役員等	13,000
メディア	10,000
観 客	10,000
計	33,000

宿泊施設の現状室数	
札幌市内 計	26,091
札幌50km圏 計	32,215
北海道内 計	109,047
(ニセコ)	(6,000)
(帯広)	(8,000)

魅力あふれる観光地・札幌

札幌は北海道の政治、経済、文化の中心地です。およそ80年に渡り道政を担った北海道旧本庁舎や、札幌市時計台、1876年に札幌農学校として開学した北海道大学など、北海道の歴史を語る建物が今も残っています。

日本で5番目の人口を擁する札幌は、ビルや住宅が建ち並ぶ「都市」としての機能と、郊外に広がる「自然」という二つの要素を併せ持っています。この「都市と自然の調和」が、札幌の特徴であり魅力です。

北海道の物流の中心である札幌には、採れたての野菜や果物、新鮮な魚が道内各地から集まり豊かな食文化を生み出しています。ラーメン、ジンギスカン、すし・海鮮、スープカレーが有名ですが、「食材の宝庫」に集まったシェフ達がつくる、札幌ならではのフレンチも評判です。

札幌は、芸術文化に代表される「創造性」を活かして街の活性化を進めています。音楽、美術、映像などの様々なイベントが開催され、市民や世界各地から訪れる旅行者を楽しませ、交流を促しています。



北海道の観光拠点として

道央・道南・道北・道東への高速自動車道が整備され、札幌は北海道内の観光の玄関口としての機能をますます高めています。

札幌市は北海道内の総合振興局・振興局と道内観光の振興についての連携を図っています

JRや飛行機等により他都市へのアクセスが容易な札幌は、北海道の拠点都市となっています。



基本的な考え方

(1) 既存施設の最大限の活用と仮設による無駄のない施設整備

夏季施設も含めた既存施設を最大限活用することや、恒久施設と仮設施設を組み合わせることで、財政負担を低減するとともに、大会後には夏冬問わず多目的に活用できる稼働率の高い施設整備を目指します。



(2) PFIやPPP等による民間資本の積極活用

競技施設や社会基盤の整備にPFIやPPP等による民間投資を促すほか、再開発などの手法を活用しながらホテルや民間ビルの建て替えの支援を行うなど、官民一体でまちのリニューアルを進めます。

また、選手村やメディアセンターの一部については、民間施設の借上方式を導入し、民間資本の活用による効率的、効果的な施設整備を目指します。

(3) 公共施設等の再整備との連動

選手村やメディアセンターの整備にあたっては、更新時期にある既存の同種用途の公共施設等の再整備と連動させるなど、公共機能の統廃合や機能移転を組み合わせることで、将来のまちづくりを見据えた、効率的な施設整備を目指します。

(4) 冬季オリンピック・パラリンピック基金の設置

冬季オリンピック・パラリンピックの招致・開催にあたって必要となる招致経費、競技施設整備費、大会運営費等の多額の財政負担に備えることを目的として札幌市に基金を設置します。（平成28年3月設置）

試算の前提条件

(1) 建設費の考え方

オリンピックで求められる規模を基に、実勢単価、過去事例単価等により積上げ

(2) 大会運営費の考え方

平昌・北京の立候補ファイルの平均値を基本として設定

仮設費については積上げ

(3) 招致経費の考え方

東京・長野の事例を参考に積上げ

(4) 開催地負担額の考え方

○建設費 → 長野の事例を参考に開催地（市町）が1/4を負担

○大会運営費 → 組織委員会が負担するが、収入（平昌・北京の立候補ファイル平均値）を上回る分については、開催地（市町）が1/2を負担

(5) インフレ率について

「中長期の経済財政に関する試算」（平成28年1月21日 内閣府）における消費者物価上昇率1.2%で2026年まで毎年推移すると見込み、2016年3月時点の試算額にインフレ率を掛けて算出

(6) 為替レートについて

東京の立候補ファイルを参考に過去8年間の平均値（1\$=95円）として設定

開催経費

計画案1: スピードスケート会場が札幌の場合

(単位: 億円)			(単位: 億円)			
2026年時点			2016年試算		2014年調査時 (参考)	
	総額	開催地負担額	総額	開催地負担額	総額	開催地負担額
競技施設建設費	1,044	261	927	232	995	254
選手村・メディアセンター 等建設費	1,057	372	938	330	1,139	232
大会運営費	2,436	452	2,162	401	1,861	194
(内訳)						
仮設費	819	304	727	270	613	168
運営費	1,617	148	1,435	131	1,248	26
招致経費	28	17	25	15	50	35
開催経費合計	4,565	1,102	4,052	978	4,045	715

×インフレ率



開催経費を4,565億円と見込んでいます。
(※開催地負担分としては1,102億円)

計画案2: スピードスケート会場が帯広の場合

(単位: 億円)			(単位: 億円)			
2026年時点			2016年試算		2014年調査時 (参考)	
	総額	開催地負担額	総額	開催地負担額	総額	開催地負担額
競技施設建設費	780	195	692	173	995	254
選手村・メディアセンター 等建設費	1,057	372	938	330	1,139	232
大会運営費	2,463	466	2,186	413	1,861	194
(内訳)						
仮設費	846	318	751	282	613	168
運営費	1,617	148	1,435	131	1,248	26
招致経費	28	17	25	15	50	35
開催経費合計	4,328	1,050	3,841	931	4,045	715

×インフレ率



開催経費を4,328億円と見込んでいます。
(※開催地負担分としては1,050億円)

更なる経費縮減に向けて

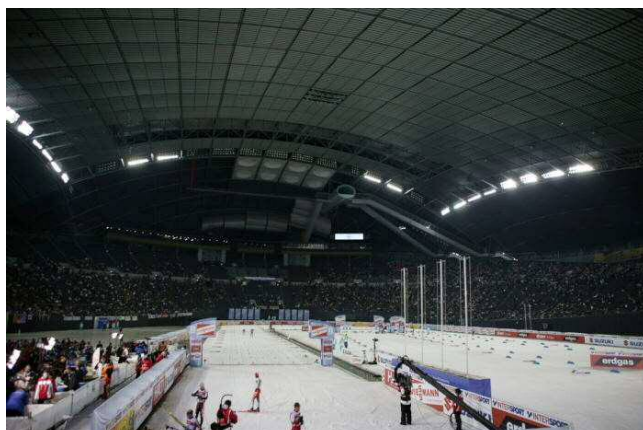
- ・更なる民間資本の積極活用に向け、民間参入しやすい計画づくりを引き続き進めます。
- ・国内に数箇所しかない競技施設の整備等について、国立施設の整備に関して国と協議していきます。
- ・市民、道民が不安や疑念を抱かないよう継続的に財政情報を開示します。

国際大会及び会議の開催状況

大規模国際大会・国際会議における豊富な開催実績

国際スポーツ大会の開催実績

- ・ 冬季オリンピック競技大会（1972年）
- ・ 世界ジュニアフィギュア競技大会（1984年）
- ・ アジア冬季競技大会（1986年、1990年）
- ・ ユニバーシアード冬季競技大会（1991年）
- ・ NHK杯国際フィギュアスケート競技大会（1998年）
- ・ FIFAワールドカップ™（2002年）
- ・ FISノルディックコンバインドワールドカップ（2004年、2005年、2006年、2015年）
- ・ FISワールドカップクロスカン트리大会（2006）
- ・ FIBAバスケットボール世界選手権（2006）
- ・ ノルディックスキー世界選手権大会（2007年）
- ・ 世界バレーボール選手権大会（2007年）
- ・ 世界アイスホッケー選手権大会ディビジョンⅠ（2008年）
- ・ 第25回アジア野球選手権大会（2009年）
- ・ 世界女子カーリング選手権大会（2015年）



毎年開催の国際スポーツ大会

- ・ スキージャンプワールドカップ（1980年～）
- ・ FIS公認 宮様スキー大会国際競技会（1974年～）

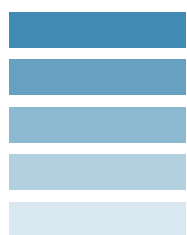
今後の国際スポーツ大会

- ・ NHK杯国際フィギュアスケート競技大会（2016年）
- ・ 2017冬季アジア札幌大会（2017年）
- ・ IPC ノルディックスキーW杯（バイアスロン・クロスカンントリー）（2017年）
- ・ FIS ノルディックコンバインドW杯（2017年）
- ・ ラグビーワールドカップ2019（2019年）
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（2020年）

国際会議の開催実績

- ・ APEC貿易担当大臣会合及び関連会合（2010年）
- ・ 国際微生物学連合2011会議（2011年）
- ・ 第27回アジア消防長協会総会（2012年）
- ・ 国際商業及び情報学術会議（2012年）
- ・ 2012年窒化物半導体国際ワークショップ（2012年）
- ・ 有機金属化学国際会議（2014年）
- ・ アジア・大洋州地球学会年会（2014年）
- ・ 第5回国際野生動物保護管理学術会議（2015年）
- ・ 第17回アジア化学会議（2017年）
- ・ 第30回世界牛病学会2018札幌（2018年）





盛り上げ編

選手強化のための協力

各競技団体と連携した全面的な支援

JOCのゴールドプランへの協力

2000年に文部省(現・文部科学省)が発表したスポーツ振興基本計画と連動して、2001年に日本オリンピック委員会(JOC)が策定した、ジュニア期からの組織的・計画的な選手育成や、強化指定選手の一貫指導、新しい指導法の指導者への教授などにより、オリンピックのメダル獲得数の倍増を目指す計画をJOCゴールドプランと言い、札幌市としても様々な施策により支援します。

- ・ 強化合宿事業
- ・ コーチ力強化事業
- ・ スポーツ国際交流事業
- ・ 将来性を有する選手の発掘及び育成事業
- ・ スポーツ指導者の育成・活用事業
- ・ 調査研究事業
- ・ アンチ・ドーピング推進支援事業
- ・ スポーツ指導者海外研修事業
- ・ 組織基盤強化事業
- ・ 競技団体交付金事業

札幌市の支援策

大会コンセプトと連動した様々な施策によって、選手強化を全面的に支援します。

- ・ 合宿施設の整備、夏場の練習環境整備
- ・ 選手の雇用、スポンサー獲得、セカンドキャリア支援
- ・ スポーツコミッションの設立
- ・ 競技団体と連携したパラリンピック競技を含む長期的な選手強化に対する支援
- ・ 海外遠征を含めた選手支援
- ・ トップ指導者の招聘支援 など



NTCの誘致と選手育成

冬季版総合ナショナルトレーニングセンター（NTC）の誘致等、冬季競技のトレーニング環境を充実させ、選手強化を全面的に支援します。

また、野球やサッカー等、夏季競技とも一体化した選手育成を支援します。

さらに、障がいのある子どもがスポーツを楽しめる環境を作り、障がい者スポーツの裾野を広げていきます。



オリンピズムをすべての人に。そして、次世代へ。

オリンピズムと文化芸術との融合

PMF※1やSIAF※2など、札幌が世界に誇る文化芸術イベントと連携した情報発信を大会前から行うことで、オリンピックの根本原則であるオリンピズムを国内外に広く浸透させていきます。

PMFにおいては、オリンピックコンサートと連携した実施方法を検討するとともに、2026年に第5回を数えることとなるSIAFにおいては、開催期間をオリンピックにあわせて実施することで、オリンピズムの精神のもと、文化芸術とスポーツが融合した多様なイベントを札幌市内全域で展開していきます。

また、ユネスコの創造都市ネットワーク※3に「メディアアーツ都市」として加盟している本市は、技術革新の目覚ましいICT等を活用し、観客が選手とともに参加できるようなインタラクティブな開会式を目指します。

さらに、「さっぽろ雪まつり」の巨大な雪氷像や、プロジェクションマッピングなども活用することに加え、メダル授与式に雪氷像を活用するなど、受賞者及び観客にとって特別なシーンを演出します。

また、各競技会場にも雪氷像を配置して関係者をお出迎えする等、降雪量の多い都市ならではの取組みにより、世界中の観光客に向けてオリンピズムを発信します。



PMF

SIAF

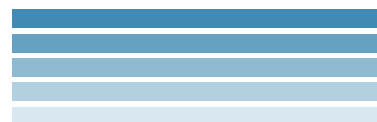
さっぽろ雪まつり

プロジェクトFUKUSHIMA！
《フェスティバルFUKUSHIMA！北3条広場で盆踊り》
札幌国際芸術祭2014の様子 撮影：小牧 寿里

※1 PMF（パシフィックミュージックフェスティバル）
20世紀を代表する指揮者、作曲家のレナード・バーンスタインによって1990年に札幌に創設された国際教育音楽祭。オーディションで選ばれた、世界中から集まる豊かな才能を持つ若手音楽家を育成する音楽祭で、毎年7月の約1カ月間、音楽を通じた国際交流、国際相互理解に貢献している。現在までに3,200人もの優秀な音楽家を世界に輩出している。「パシフィック」は単に地理的な意味を表すものではなく、この言葉がもつ太平、平和を音楽祭の理念として掲げたもの。

※2 SIAF（札幌国際芸術祭）
3年に1度、札幌市内各所で開催される国際的な芸術祭。初回となった2014年は7月19日～9月28日の72日間に約48万人が国内外から訪れた。

※3 ユネスコ創造都市ネットワーク
デザイン、工芸、食文化など7つの創造産業分野で実績のある都市をユネスコが認定し、国際的都市間連携を支援するもの。創造産業による都市の活性化、文化多様性の理解促進、社会包摂、官民連携などを通じ、都市の持続的発展を目指す。札幌市は2013年11月よりメディアアーツ（IT・コンテンツ産業、デジタルテクノロジーを活用した表現）で加盟。



多様性を学ぶ機会の創出、多様性を尊重する心のはぐくみ

オリンピズムの目的である「人間の尊厳に重きを置く平和な社会」実現のため、北海道の先住民族であるアイヌへの理解促進とアイヌ文化の振興、パラリンピックムーブメントの発展による障がい者に対する理解促進に努めます。また、学校教育を通じて、子どものうちから民族や国、人種や性、障がいの有無といった違いを超えて人々を結び付けるスポーツの力について理解を広め、あらゆる多様性を尊重できる心を育み、共生社会を次世代に受け継いでいきます。

アイヌ文化を世界に発信

開会式にアイヌ文化のエキシビションを組み込むことで、北海道のアイヌ文化を世界に向けて発信します。

障がい者への理解促進

障がい者スポーツ大会の積極誘致により障がい者スポーツの普及・発展に尽くします。

また、障がい者を含むすべての人が安心して暮らせるよう、市民への啓発・広報を行い「心のバリアフリー」を推進します。

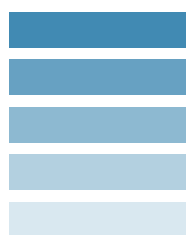
学校での教育活動

オリンピック・パラリンピック教育を通じて、児童生徒が世界に目を向けるきっかけを提供します。

また、アスリートの協力を得ながら、子どもたちがスポーツを始めるきっかけを作っていきます。

さらに、外国の子どもたちとのスポーツ交流を通じて、スポーツが世界共通言語であり、世界平和に貢献できることの理解を促進します。





レガシー編

オリンピック・パラリンピックにより何を遺すか

ウィンタースポーツを楽しむ文化を次世代へ

ウィンタースポーツ人口の拡大

ウィンタースポーツの裾野を広げ、日常生活の延長線上にオリンピック・パラリンピックがあるという文化を創出します。

身近で気軽な遊びを通して、だれもが冬にからだを動かし、健康づくりや仲間づくりなど多様な楽しみを持つことで冬の生活を豊かなものにします。

- 公園などで気軽にウィンタースポーツができる環境づくり
- アスリートとの交流を含めたウィンタースポーツの体験機会を提供
- 競技人口の増加につながるアスリート等による裾野拡大の取組み
- 「観るスポーツ」の進化により、市民のウィンタースポーツへの関わり方を変える取組み
- 学校や地域でのウィンタースポーツ教育の充実による裾野拡大
- 用具レンタルやリユースによる裾野拡大



オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進

オリンピックの輝かしい歴史や価値を後世に伝え、オリンピック・パラリンピックを通じて、人類がともに栄え、文化を高め、世界平和の実現に貢献します。

- ウィンタースポーツミュージアムのオリンピックミュージアムへのリニューアル
- オリンピック・パラリンピック教育の充実
- 国際芸術祭などの文化イベントとの連携による文化プログラムの充実
- 先住民族への理解促進



オリンピック・パラリンピックにより何を遺すか

「パラリンピック」の更なる理解へ

パラリンピックの開催を契機に、ノーマライゼーションの理念を広めていきます。

また、障がいの有無を問わないインクルーシブな大会を開催していきます。

さらに、オリンピックとパラリンピックの融合により、互いに手を携え、誰もが活躍できる共生社会の実現につなげていきます。

- パラリンピック教育の推進
- 障がい者スポーツの裾野の拡大、指導者育成
- 選手と子どもたちの交流や障がい者スポーツ大会へのボランティア参加の促進
- 障がい者スポーツを気軽に体験できる機会の創出
- 大会の積極的誘致



世界に誇るウィンタースポーツ王国「北海道」へ

アスリート育成のための環境整備

夏場の練習環境の整備、合宿施設の整備などにより、アジアを始めとする世界のアスリートへの支援を行い、ウィンタースポーツにおける国際競技力の向上に貢献します。

- ナショナルトレーニングセンターの指定
- アジアのウィンタースポーツアスリートの受入
- 民間企業による選手の雇用、スポンサーの獲得
- アスリートのセカンドキャリア支援



どさんこアスリート育成

大会の成功に不可欠であるメダリストを北海道から生み出すため、アスリートの育成を支援します。

- スケルトン、バイアスロン、カーリング等の冬季競技を中心に小中学生からタレントアスリートの発掘
- 夏季競技も含めた交流による選手発掘

また、冬季競技の盛んな道内市町村と札幌市が連携し、幼少期（市町村）から青年期（札幌市）までの一貫した育成システムを整えることにより、冬季スポーツの振興を図っていきます。

さらに、JOCが実施するアスナビ事業等とも連携しながら、選手への支援の多様化を進めていきます。



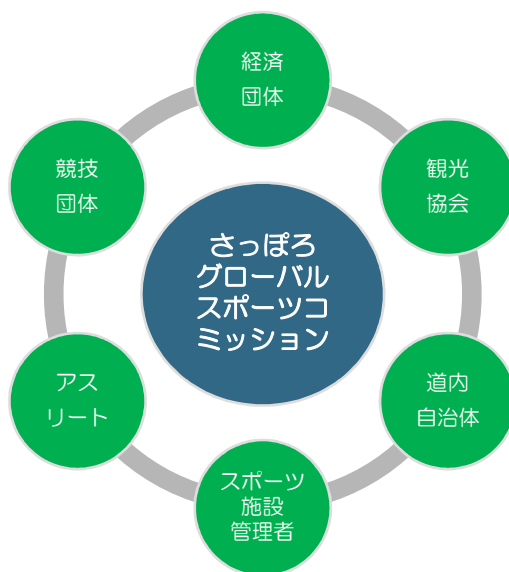
ウィンタースポーツで北海道を活性化

北海道の良質な雪、豊かな自然を活かし、アジアにおけるウィンタースポーツの拠点としてのブランドを高め、「ウィンタースポーツ王国北海道」として、オール北海道で、ウィンタースポーツによる北海道の活性化を図ります。

- 「さっぽろグローバルスポーツコミッション」※の設立（平成28年3月設立）
- 国際大会の継続的な招致、開催
- スポーツパークを活用した合宿誘致
- スキーリゾート北海道としての世界への発信
- ウィンタースポーツツーリズムの推進

※ スポーツコミッション

地方自治体や競技団体、観光団体、企業等が連携し、戦略的にスポーツ大会誘致や運営支援等を行う専門組織



北海道の魅力を世界に

練習会場としての利用

各国の選手団が道内各地の練習会場を利用することにより、世界のトップアスリートと道民の交流が生まれるほか、観光地としての魅力を世界にPRします。

北海道全体で取り組むスポーツ合宿誘致

冬季競技に限らず夏季競技も含めたスポーツ競技の合宿を、全道各地で受入れ、おもてなしにより北海道の魅力をPRしていきます。

関連施設整備への道産材料の積極的使用

大会関連施設の整備に道産材料を積極的に使用することにより、道内の林業や製造業などの活性化につなげます。

北海道の食文化の世界への発信

オリンピック・パラリンピックを通して北海道の食の文化が世界から注目されることにより、道産食材の需要が高まり、道内の農業や漁業などの一次産業の活性化につなげます。



大会後も市民に利用される稼働率の高い施設整備

競技施設は、本設と仮設を効率的に組み合わせることに加え、イベントや展示場などにも転用が可能な多目的化を図るなど、コストを抑え、多くの市民や観光客に利用される稼働率の高い施設整備を行います。

競技種目	競技会場	形態	後利用
アルペン	ニセコ	既存改修	スキーコースとして引き続き利用を想定
クロスカントリー	白旗山競技場	既存改修	クロスカントリーコースとして引き続き利用を想定
ジャンプ（ラージ）	大倉山ジャンプ競技場	既存改修	ジャンプ競技場として引き続き利用を想定
ジャンプ（ノーマル）	宮の森ジャンプ競技場	既存改修	ジャンプ競技場として引き続き利用を想定
ノルディック複合	円山総合運動場	仮設	陸上競技場、野球場、テニスコートとしての利用を想定
フリースタイル・スノーボード	サッポロティネスキー場 札幌国際スキー場 さっぽろばんけいスキー場	既存改修	スキーコースとして利用するが、コース構築物については、大会後は撤去の想定
スピードスケート	真駒内公園屋外競技場	建替	夏期はスポーツ・イベント会場、冬期はスピード、フィギュア、ショートトラック競技場としての利用を想定
	明治北海道十勝オーバル	既存改修	通年でのスケートリンクとしての利用を想定
フィギュアスケート・ショートトラック	真駒内公園屋内競技場	建替	スケートのほか、体育館やイベントホールなど多目的利用を想定
アイスホッケー（男子）	スポーツ交流施設コミュニティドーム（つどいむ）	仮設	大会時はアイスマットを敷くが、大会後は撤去し、スポーツ、イベントホールとしての利用を想定
アイスホッケー（女子）	月寒体育館	建替	通年のスケートリンクとしての利用を想定
ボブスレー・スkeleton・リュージュ	サッポロティネ	建替	NTCとしての指定を受け、スキー場と一体化した施設として、競技者だけではなく、市民や観光客も利用できる施設を想定
カーリング	北海きたえーる	仮設	大会時はアイスマットを敷くが、大会後は撤去し、体育館、イベントホールとしての利用を想定
バイアスロン	西岡バイアスロン競技場	既存改修	バイアスロン競技場として引き続き利用を想定
選手村	札幌ドーム隣接地	新設	宿泊施設や体育施設等の一部施設を有効活用し、宿泊機能やスポーツのトレーニング施設としての利用を想定
メディアセンター	北海道立産業共進会場跡地	新設	イベントの開催が可能な展示場等や商業施設としての利用を想定

仮設施設の有効利用

大会で使用した仮設施設を移築あるいは部分的な再利用を行い、オリンピック・パラリンピックで使ったという記憶を残すとともに再利用による有効活用を図ります。

- レガシーとして道内各地の競技場等に活用
- 災害時の利用等の有効活用

北の創造都市「さっぽろ」に向けて

先駆的なまちづくりモデルを世界に発信

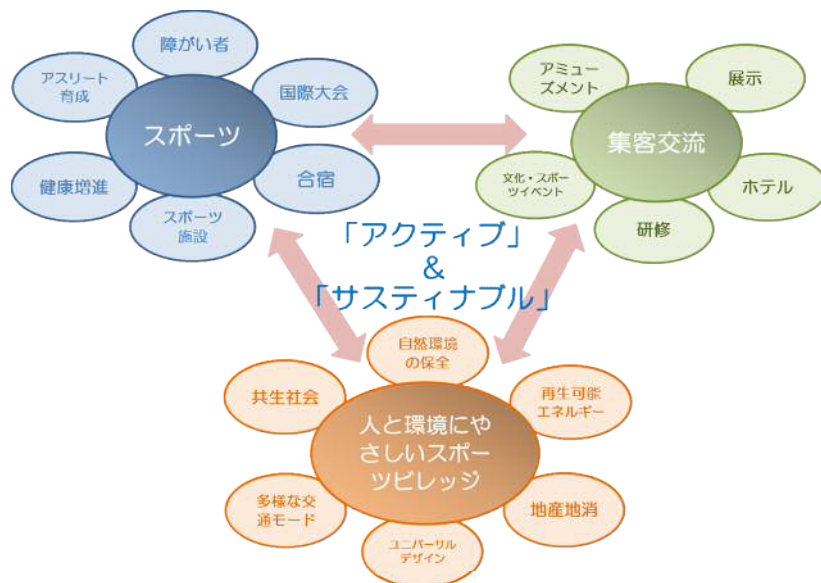
○選手村 ～札幌ドーム周辺に人と環境にやさしいスポーツビレッジを実現～

札幌ドームに隣接した選手村は、新たなオリンピックレガシーの象徴空間として、スポーツと集客機能が共存する最先端の環境技術を導入した「人と環境にやさしいスポーツビレッジ」として世界に発信します。

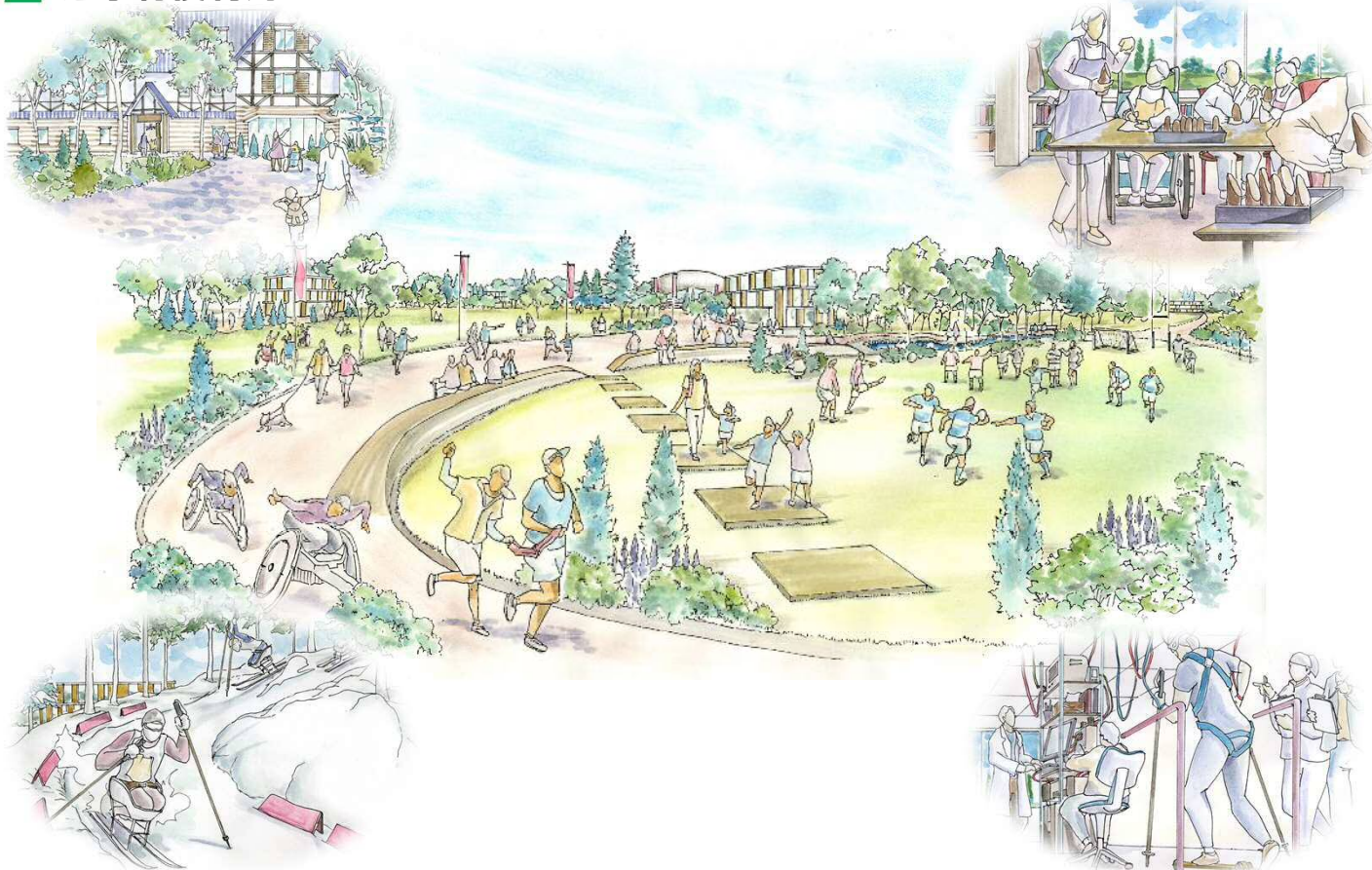
札幌ドームの魅力をさらに高める賑わいの空間へ

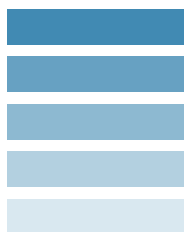
周辺の自然環境やメモリアルパークを活かし障がい者スポーツセンターやスポーツ科学の研究機関などのスポーツの拠点づくり

障がい者や高齢者を含めたすべての人が健康で豊かな暮らしを体験できるスポーツビレッジに



選手村後利用イメージ





資料編

2016年ベースでの開催経費試算根拠

競技施設・非競技施設の前提条件

項目	オリリンピック・パラリンピックで求められる基準	規模・単価根拠	想定 後利用	想定 整備主体
競技施設	屋外競技施設 (カバ、リ、ス、ホ、ド) ・観客席数、運営施設等について規定	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、業者ヒアリング単価	大会コース→スキー場 仮設 (観客席、運営施設等、コース造作物) →撤去	民間・開催地 組織委員会
	屋外競技施設 (カカ、ハ、イ、ド) ・観客席数、運営施設等について規定	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、業者ヒアリング単価	大会コース→競技場 仮設 (観客席、運営施設等、コース造作物) →撤去	開催地 組織委員会
	屋外競技施設 (ジャ、グ、ホ、ス、ル) ・観客席数、運営施設等について規定	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、JBC単価	競技施設→継続利用 仮設 (屋外観客席、運営施設等) →撤去	開催地 組織委員会
	屋内競技施設 (カ、ト、ホ、グ、等) ・観客席数、運営施設等について規定	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、JBC単価	競技施設→継続利用、多目的利用 仮設 (屋内観客席、運営施設等) →撤去	開催地 組織委員会
選手村	大会期間中の選手・関係者の宿泊施設と必要なサービスを提供。 ・収容人員：4,500人 ・主な施設：住居 (延床面積：105,000㎡)、駐車場 (600台) レストラン、病院、娯楽施設、銀行、美容室、花屋等 (延床面積：25,000㎡)	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、JBC単価	宿泊施設 (公：民三：一) スポーツ・利便施設 (公・民) 仮設 (利便施設) →撤去	札幌市・民間 札幌市・民間 組織委員会
	メディアの宿泊施設としてホテル (三ツ星、四ツ星程度) を提供。 メディアの宿泊施設の近1割程度をメディアセンター近接地に整備。 (全10,000室程度を想定→1,000室を新設)	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、JBC単価	ホテル・居住施設 (公：民三：一) 既存宿泊施設を利用	札幌市・民間 民間
	各国放送局の本部と活字メディアの作業場。 メディア村や主な競技会場、公共交通機関の近くに設置。 ・主な施設：メイン・プレス・センター (延床面積：20,000㎡) 放送センター (延床面積：43,000㎡) 物流 (延床面積：6,000㎡) サテライト (延床面積：9,000㎡) ※市外会場毎	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、JBC単価	展示場 商業施設等 仮設→撤去 既存体育施設等を利用 不足分は仮設→撤去	札幌市 民間 組織委員会 組織委員会
			市外	民間

積算の前提条件

項目	試算の考え方
交通網等の関連施設	既存道路を大会専用レーンにすることを想定 (費用は計上しない) 仮設費：構上げによる 収支：平昌・北京の立候補ファイル提出時点の平均値を採用 ※一部、会場使用料等については構上げ、セキュリティ費は昨今の世界情勢を見据え平均値の2倍とした。 収支不足額：自治体助成を想定 為替レート：過去8年間の平均値 (1\$=95円) を想定 ※東京の立候補ファイルを参考に
大会運営費	東京・長野の事例を参考に積み上げ 札幌市負担分として計上 (後利用として民間への売却又は賃借による収入については経費に含まないこととする)
招致経費	選手、IOC役員の宿泊費については組織委員会が全額負担 (大会運営費の中の会場運営費に内包)、メディアの宿泊費は各メディアが全額負担
用地費	メディア村
宿泊費	建設工業経営研究会の標準建築費指数を準用 ※2016年3月時点の単価への置き換え 2012～2014年の間の実勢価格の平均値にデフレクターを掛け2016年3月時点の単価として設定
デフレクター	JBC単価 (実勢単価) 建設当時の単価にデフレクターを掛け2016年3月時点の単価として設定
	過去事例単価 札幌市の単価を使用しているためデフレクターは設定しない
	業者ヒアリング単価 時価として設定しているためデフレクターは設定しない
	競技施設 長野の事例を参考に、開催地が1/4を負担
費用負担	選手村、メディア村 宿泊施設は公：民三：一 (公共負担分は札幌市が1/2を負担)、スポーツ施設は札幌市が1/2を負担、利便施設は民間100%
	メディアセンター 展示場→札幌市が1/2を負担、商業施設等→民間100%
	大会運営費 平昌・北京の支出の平均額を限度に組織委員会が負担 ※ただし、限度額を超えた分は長野の事例を参考に開催地が1/2を負担
	※JBC単価…一般財団法人建設物価調査会の実勢価格調査単価

施設整備費（内訳）

（単位：億円）

競技名	2014年調査時				2016年計画案1				2016年計画案2			
	本設	民間	計	仮設 (大会運営費該当分)	本設	民間	計	仮設 (大会運営費該当分)	本設	民間	計	仮設 (大会運営費該当分)
	開催地			開催地	開催地			開催地	開催地			開催地
アルペン	0		0	53	12	65	4	42	50	4	50	42
フリースタイル・スノーボード			0	104	17	121	1	168	170	1	170	168
クロスカントリースキー			0	52	0	52	1	72	73	1	73	72
ジャンプ(ラージ)			51	39	0	90	42	25	67	42	67	25
ジャンプ(ノーマル)			46	43	0	89	43	25	68	43	68	25
ノルディック複合			0	0	0	0	1	43	44	1	44	43
ボブスレー・スケルトン・リュージュ			105	57	0	162	134	44	178	134	178	44
バイアスロン	254		1	53	0	54	2	63	65	2	65	63
スピードスケート			217	0	0	217	257	13	270	22	270	28
フィギュアスケート・ショートトラック			213	0	0	213	250	22	272	250	272	22
アイスホッケー（男子）			166	0	0	166	38	31	69	38	69	31
アイスホッケー（女子）			108	0	0	108	130	24	154	130	154	24
カーリング			59	0	0	59	19	7	26	19	26	7
小計	254		966	401	29	1,396	922	579	1,506	173	687	594
メディアセンター			182	96	77	355	151	57	238	151	238	57
メディアセンターニセコ			0	108	0	108	0	12	12	0	12	12
メディアセンター帯広	232		0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
メディア村			32	0	264	296	63	0	140	63	140	0
選手村			226	8	170	404	278	79	612	278	612	79
用地取得費	0		0	0	188	188	84	0	84	84	84	0
小計	232		440	212	699	1,351	576	148	1,086	362	1,095	157
施設整備費（計）	486		1,406	613	728	2,747	562	270	2,592	367	2,381	751

冬季オリンピックの開催がない場合でも
発生する通常の施設更新費

（単位：億円）

大倉山ジャパ 競技場	23
宮の森ジャ 競技場	19
真駒内屋外競技場	149
真駒内屋内競技場	152
月寒体育館	68
合計	411

会場別施設整備費（内訳）

（単位：億円）

種別・競技	種目	基準（一部）	建物延床面積	候補地 場所	後利用
屋外 競技 施設	アルペン	標高800～1,100m	仮設 13,600㎡	ニセコ	スキークースとして利用することを想定
				本設 8 内訳：コース造成2.3億 散水設備2.9億	仮設 42 内訳：建物2.4億 照明・放送設備6.4億
	フリースタイル スキー・スノーボード	全長400～700m 全長650～1,200m 全長1,000m程度 全長200～270m 全長120～150m 助走25・距離64m以上	仮設 26,600㎡	サッポロテイスネスキー場 札幌国際スキー場 さっぽろはげいふスキー場	※計算は札幌国際、 ばんげいの2か所 で行った。 スキークースとして利用するが、構築物については、大会後は 撤去の想定。
				本設 2 内訳：散水設備2.3億	仮設 168 内訳：コース造成2.4億 建物46.9億 照明・放送設備62.1億
				白旗山競技場	クロスカントリリーコースとして引き継ぎ利用を想定
				本設 1 内訳：整地1.3億	仮設 72 内訳：建物28.4億 照明・放送設備32.7億
	ジャンプ(ラージ)	固定3,000席 立見1～1.5万席	既存(運営本部) 1,900㎡ 仮設 10,900㎡	大倉山ジャンプ競技場	ジャンプ競技場として引き継ぎ利用を想定
				本設 42 内訳：ジャンプ台改修11.0億 照明・放送設備6.5億 立体駐車場15.3億	仮設 25 内訳：建物19.2億
	ジャンプ(ノーマル)	固定3,000席 立見1～1.5万席	本設 1,900㎡ 仮設 10,900㎡	宮の森ジャンプ競技場	ジャンプ競技場として引き継ぎ利用を想定
				本設 43 内訳：建物6.7億 ジャンプ台改修11.0億 照明・放送設備3.7億 立体駐車場15.3億	仮設 25 内訳：建物19.2億
	ノルディック複合	クロカン・ジャンプに同じ	仮設 12,600㎡	円山総合運動場 (仮設)	夏期は陸上、テニス、野球場として利用し、冬期は、仮設のク ロスカントリリーコースとしての利用を想定
				本設 1 内訳：整地0.2億	仮設 43 内訳：コース造成1.2億 照明・放送設備11.0億 放送設備3.4億 建物2.2億
屋内 競技 施設	ボブスレー スケルトン リュージュ	固定1,000席 立見10,000席 1,000m以上	仮設 22,400㎡	サッポロテイスネスキー場 (運営)	スキークースと一体化した施設として、競技者だけではなく、市民 や観光客も利用できる施設を想定
				本設 134 内訳：コース造成101.5億 コース維持9.9億 照明・放送3.9億	仮設 44 内訳：建物39.5億
	バイアスロン	固定5～7千席 立見1～1.5万席	仮設 17,300㎡	西岡バイアスロン競技場	バイアスロン競技場として引き継ぎ利用を想定
				本設 2 内訳：整地1.3億	仮設 63 内訳：照明・放送設備20.6億 放送設備1.7億 建物30.3億

(単位：億円)

種別	競技	種目	基準（一部）	建物延床面積	候補地 場所	後利用
屋内競技施設	スピードスケート		6,000席 リンク120m×72m	本設 34,500㎡ 仮設 5,800㎡	真駒内公園屋外競技場（札幌の場合） （建替）	多目的スポーツ施設として連年利用するほか、冬期はスピードスケート競技場としての利用を想定
					本設 257 内訳：建物197.4㎡ 冷凍設備11.0㎡ 一般外構6.8㎡ 映像設備8.8㎡ 解体8.3㎡	13 合計 270 2014年（合計） 217
					明治北海道十勝オーバル（帯広の場合）	引き続き、通年型のリンクとしての活用の他、テニス等のフロアスポーツでの利用を想定
	フィギュアスケート ショートトラック		12,000席 リンク60m×30m	本設 35,000㎡ 仮設 10,300㎡	本設 22 内訳：建物16.8㎡ 観客席6.2㎡ 外構2.0㎡	合計 50 2014年（合計） 217
					真駒内公園屋内競技場 （建替）	連年で、体育館やイベントホールとしての利用するほか、冬期はフィギュアスケート、ショートトラック、アイスホッケー等の利用を想定
					本設 250 内訳：建物18.2㎡ 冷凍設備5.5㎡ 映像設備8.8㎡ 解体9.7㎡	合計 272 2014年（合計） 213
	アイスホッケー	男子	10,000席 リンク60m×30m	既存 18,883㎡ 仮設 12,000㎡	札幌市スポーツ交流施設コミュニティドーム（つどーむ） （仮設）	大会時はアイスマットを敷くが、大会後は撤去し、体育館、イベントホールとしての利用を想定
					本設 38 内訳：建物21.2㎡ 観客席5.5㎡	合計 69 2014年（合計） 166
					月寒体育館 （建替）	通年のアイスホッケーリンクとして利用を想定
	カーリング	女子	6,000席 リンク60m×30m	本設 17,000㎡ 仮設 11,000㎡	本設 130 内訳：建物19.4㎡ 映像設備8.8㎡ 冷凍設備5.5㎡	合計 154 2014年（合計） 108
					北海きたえーる （仮設）	大会時はアイスマットを敷くが、大会後は撤去し、体育館、イベントホールとしての利用を想定
					本設 19 内訳：建物5.2㎡ 冷凍設備5.0㎡ 観客席1.7㎡	合計 26 2014年（合計） 59

(単位：億円)

種別	競技	種目	基準（一部）	建物延床面積	候補地 場所	後利用
非競技施設	メディアセンター		延床面積 メイン・リ・セカ- 20,000㎡ 放送セカ- 43,000㎡ プレス 1,000㎡ 放送 5,000㎡ 計69,000㎡	本設 40,000㎡ 仮設 29,000㎡	共進会場跡地 (新設) 公共30,000㎡ 民間10,000㎡ 仮設29,000㎡ 内訳：建物本体157.3棟 一般外構6.1棟	共進会場の展示機能の継承と一部を商業施設することを想定 2014年（合計） 355
	メディアセンター (ニセコ)		延床面積 9,000㎡	既存 5,925㎡ 仮設 3,075㎡	倶知安町総合体育館 (仮設) 内訳：建物改修53棟 建物仮設55棟	大会後は原状復旧し、引き続き体育館として利用することを想定 2014年（合計） 108
	メディアセンター (帯広) ※スリースケート会場が帯広の場合		延床面積 9,000㎡	既存 9,000㎡	帯広の森体育施設 (仮設) 内訳：建物改修80棟	大会後は原状復旧し、引き続き体育館として利用することを想定 2014年（合計） 0
メディア村		1,000人規模		本設 41,000㎡	共進会場跡地近接地（ホテル＋居住施設） (新設) 公共20,500㎡ 民間20,500㎡ 内訳：建物本体126.3棟 一般外構0.6棟	ホテルまたは居住施設として使用することを想定 2014年（合計） 298
選手村		4,500人規模		本設 116,000㎡ 仮設 14,000㎡	札幌ドーム隣接地 (新設) 宿泊施設：公共52,500㎡ 民間52,500㎡ 利用施設：公共7,000㎡ 民間4,000㎡ 仮設14,000㎡ 内訳：建物本体456.8棟 一般外構20.1棟	スポーツと集客機能が共存する最先端の環境技術を導入した「人と環境にやさしいスポーツビレッジ」とすることを想定 2014年（合計） 404

大会運営費（内訳）

（単位：億円）

■収入

項目	立候補ファイル※1			計画案1	計画案2	算出方法
	平昌2018	北京2022	平昌・北京平均			
IOC負担金（テレビ放映権）	335.2	321.5	328.35	328	328	平昌と北京の平均値
トップスポンサーシップ	152.4	149.5	150.95	151	151	
ローカルスポンサーシップ	342.0	583.1	462.55	463	463	
オフィシャルサブライヤー	133.0	43.4	88.20	88	88	
チケット販売	230.0	112.2	171.10	171	171	
ライセンスング	33.3	76.3	54.80	55	55	
くじ等	41.8	7.1	24.45	24	24	
助成金（国・自治体）	123.5	89.7	106.60	802	826	不足額
その他	63.4	97.5	80.45	80	80	平昌と北京の平均値
収入合計	1,454.6	1,480.3	1,467.5	2,162	2,186	

■支出

項目	立候補ファイル※1			計画案1	計画案2	算出方法
	平昌2018	北京2022	平昌・北京平均			
仮設工事費	185.7	187.4	186.55	727	751	試算（仮設）
会場運営費	114.0	97.9	105.95	229	229	平昌と北京の平均値＋会場使用料等※2
大会スタッフ	179.8	133.2	156.50	157	157	平昌と北京の平均値
情報・通信	361.2	244.0	302.60	303	303	
式典・文化	87.4	67.4	77.40	77	77	
医療サービス	19.0	23.8	21.40	21	21	
ケータリング	28.5	26.8	27.65	28	28	平昌と北京の平均値の2倍
輸送	70.3	78.2	74.25	74	74	
セキュリティ	31.3	29.9	30.60	61	61	平昌と北京の平均値
パラリンピック競技大会	57.7	75.3	66.50	67	67	
広告宣伝	52.3	60.0	56.15	56	56	
管理・テストイベント・会議	112.9	140.2	126.55	127	127	平昌と北京の平均値
その他	154.4	181.6	168.00	168	168	
予備費	0.0	134.7	67.35	67	67	
支出合計	1,454.5	1,480.4	1,467.5	2,162	2,186	

※1 1ドル＝95円（過去8年間の平均レート 東京2020立候補ファイルのレート設定を参考）

※2 会場使用料は屋外・屋内競技施設及び選手村の使用料を想定